

## ◎はじめに

殆どの人は、病気は外から来るもの、あるいは不可抗力によるもの、と思っています。そう思っている限り外側に原因を探しますので、どうしても真実から目が逸らされてしまいます。それでは、苦しい病気の体験が無駄になってしまいます。私たちは、真実を知るために生まれてきたのです。真実を知らずして人生を終えては、悔やんでも悔やみきれません。また生まれてきた意味も無くなってしまう。少々難しいかもしれませんが、今の苦境を脱したいなら、そして有意義な人生を送りたいなら、どうか真実を知ってください。そのためには、病気の意味を深く知ることです。病気の意味を深く知れば、真実の扉が開かれます。真実の扉を開かれれば、病気など恐れることはありません。もうあなたの人生に、一点の不安もないでしょう。

二〇一六年 四月

かとう はかる

目次

◎はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第一章 病気には意味がある

1、宇宙には意識と意志と秩序がある・・・・・・・・・・ 3  
2、宇宙は「真・善・美」で固められている・・・・・・・・ 4  
3、病気が果たす役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7  
4、原因と結果の法則・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13  
5、宇宙生命の最終目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

第二章 病気の実体

1、病気の原因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17  
2、病気は想念病である・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19  
3、人類が使っている治療法・・・・・・・・・・・・・・ 21  
4、生命力とは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

第三章 究極の治療法

1、想念による治療法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26  
2、癒しの言葉（リーディング）による治療法・・・・・・・・ 45  
3、真理による治療法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85  
◎唯物的な迷いを退ける助言・・・・・・・・・・・・・・ 154  
◎おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158

## 第一章 病気には意味がある

### 1、宇宙には意識と意志と秩序がある

この宇宙には、きつちりとした秩序があります。

秩序があるということは、意識と意志があるということです。意識と意志があるということは、この宇宙で起きているどんなできごとにも意味があり、目的があるということになります。なぜなら、意味も目的も無い意識と意志はありえないからです。では宇宙意志(宇宙意志を、以後宇宙生命と呼ぶことにする)は、一体何を目指しているのでしょうか？

宇宙生命は「真・善・美」を枕とした大調和を目指しています。宇宙が今日まで安定した運航を保ってこられたのは、この大調和の意思がどこまでも貫かれていたからです。

では宇宙生命の意思は、どのような形で実現されているのでしょうか？

それは人類が、宇宙生命の手足となって働くことで実現されています。人間がものを考え、言葉を語り、字や絵を描き、コンピューターを操り、ビルを建て、この世界に様々な創造をなしているのは、正に宇宙生命の手足となって働いている証であり、宇宙生命が人間を通して自分の意思を実現させている何もものでもないのです。まずこの事実を知ってください。

## 2、宇宙は「真・善・美」で固められている

宇宙には秩序があるわけですが、その秩序の支柱を成しているのが、「真・善・美」です。この「真・善・美」を離れては、何も存在できないのです。

「真」・・・

真実を貫き通しています。

揺るがぬ法則の下にあります。

純朴・純粹・純真のものです。

清心・誠心・聖心そのものです。

「善」・・・

絶対善・絶対正義を貫いています。

一切のしがらみを超越しています。

真っ直ぐな動機に基づいて働いています。

「美」・・・

高いエネルギーを分け隔てなく放出しています。

すべての創造物に平安と安寧と久遠の安らぎを与えています。

宇宙の運航がバランス良くなされるよう最善の心配りがなされています。

宇宙におけるドラマが、より高度なものになるよう、より喜び多いものになるよう、より美しいものになるよう、細心の配慮がなされています。

このように宇宙は、一思一念の中に、一姿一形の中に、一挙一動の中に

「真・善・美」を織り込みながらより高い調和を目指しているのです。

〔光のメロディー集「模範を示す宇宙」より抜粋〕

私が嬉しく思うのは、悪をはびこらせない秩序が、何処までも徹底されている点です。

もし悪がはびこるなら、とつくに宇宙は消滅していただきます。今日まで宇宙が無事存続してこられたのは、悪や不善が無かったからです。世の中には性悪説を信じる人がいますが、この宇宙に悪など無いのです。それどころか宇宙は、善によって、正義によって、護られているのです。だから私たちは、安心して生きられるのです。たしかに世の中に

は、”神も仏もあるものか！・・”と思いたくなるような不幸が沢山あります。でもその不幸は、神仏がしているのでは無く、私たちの想いと言葉と行いがしているのです。それは、宇宙の法則を知らないからです。ここで宇宙の法則を長々と述べることは避けませんが、次のことだけは信じてください。それは、「この宇宙に悪や不善はない！ あるのは善だけ正義だけである」ということです。そのことが信じられたら、”よし善に生きよう！ 正義を全うしよう！”という強い思いが湧いてくるはずですよ。

### 3、病気が果たす役割

さて、宇宙で起きているどんなできごとにも意味があり、目的があるならば、当然この世で起きているどんなできごとにも、意味があり、目的があることになります。では病気には、一体どのような意味があるのでしょうか？

## 人の世に病気がある理由（1）

宇宙生命はしっかりとした監視の目を持って、地球上の生き物たちを調和へ調和へと導いています。もし調和を乱そうものなら、監視の目の抑制力が働きだし、そく座に不調和を解消しようとします。たとえば空気や水や土が汚れば、台風がその汚れを解消します。汚れた想念が地上に溜まれば、雷がその汚れを解消しようとします。さらに地下に溜まれば、地震がその汚れを解消しようとします。そして人体に溜まれば、病気がその汚れを解消しようとします。台風も、雷も、地震も、病気も、人類にとっては災難ですが、その災難が人類の暴走に歯止めをかけているのです。もし病気が無かったら、人類はとくに自滅していたことでしょう。人類が曲がりなりにも今日まで生存してこられたのは、病気という抑制力によって行動が制御されてきたからです。

たとえば物質に偏り始めたら、ガンという病気が生まれました。性の退廃が始まると、



エイズという病気が生まれました。グルメに狂い始めたら、狂牛病やO<sub>157</sub>や鳥インフルエンザなどの病気が生まれました。化学物質が大量に使われ始めると、花粉病やアレルギー病が生まれました。このように、まるで人類の乱行に釘を刺すように新しい病気が生まれているのです。これを偶然と見るか必然と見るかは皆さんの良識に任せますが、どちらにしても宇宙生命の監視の目によって抑制されてきたことは疑いのないことなのです。（監視の目とは、原因と結果の法則のことである）このように病気は、人類の乱行に待ったをかけるために用意された警報装置なのです。

## 人の世に病気がある理由(2)

人間は誰もが、肉体を自分だと思っています。でも人間の本性は、生命なのです。突然このような話を持ち出すと戸惑われるかもしれませんが、これは間違いないことなの

です。（これはとても大切な事なので、詳しく知りたい方は「人類の夜明2と3」を読んでください）

自分のことを人間と知っている限り、欲望を膨らませ、感情を掻き立て、怒り、憎しみ、恨み、競い、奪い、戦争をし、病気をし、事故を起こし、地球環境を破壊します。これでは人類の生存は不可能です。そこで宇宙生命は、人類を目覚めさす手段として病気を用意したのです。これは人間をいじめるためでは無く、自分の本性に気付いてもらうためです。事実、多くの人が病気を切っ掛けに、人生の思索を始めるようになっていきます。悲しいことですが、人間はこの身で苦しみや悲しみを体験しなければ、人生に疑問を持たないのです。

殆どの人は、自分の本性を知らず、人間として生きています。人間として生きれば、どうしても病気になるのです。生命として生きれば、病気になることはないのです。そ

の証に、生命に従順に生きている自然界に病気はありません。人間も生命に従順に生きれば、一生健康で生きられるのです。しかし人間には自由意志があるため、どうしても生命に逆らった生き方をしてしまうのです。もし人間に自由意志がなかったら、病気になることは無いのですが、それでは万物の霊長としての役割が果たせないため、宇宙生命は人類に自由意志を与えたのです。その自由意志を使って病気を作り、人間は苦しんでいるのです。

### 人の世に病気がある理由(3)

今日の科学は、物質の様々な謎を解明しつつあります。でも病気の解明は、遅々として進んでいません。進まないどころか、ますます難病が増えています。これほど医学が進歩しているというのに、なぜ病気は無くならないのでしょうか？ それは、病気が無かったら、自分の過ちに気づかないからです。人の世に病気があるのは、「過ちに気づ

かせるためである」と覚者は言っていますが、人間は未だにそのことに気付いていないのです。私自身を顧みても、不調和な時代には、子供たちが相次いで病気になりました。それでも目覚めないものですから、今度は我が身で苦しみを体験し、やっと目覚めたのです。目覚めて生き方を正すと、すべてが好転していったわけですが、この変化は驚くほどでした。

病気で苦しむには、苦しむだけの原因を必ず作っているのです。今病気で苦しんでいる人は、自分の想いと言葉と行いをチェックしてみてください。必ず思い当たることがあるはずですよ。外から与えられた病気など、一つもありません。みな自分が作った病気です。このことに気付き生き方を正したら、間違いなく病気は快方に向かいます。生き方を正すとは、正しい想念を持ち、正しい言葉遣いをし、正しい行いをする事、すなわち「身・口・意」を正すことです。この宇宙は、実に単純で正直にできています。良い

ことをすれば良いことが、悪いことをすれば悪いことが・・・この原因と結果の法則は間違ひありません。どうか病気は、「過ちに気付かせるために起きている」ということに気付いてください。

このように病気は、第一に人類の乱行に待ったをかけるために、第二に人間の本性に目覚めさせるために、第三に過ちに気づかせるために起きているのです。いいえ病気だけではありません。この地球上で起きている、戦争・テロ・事件・事故・災害すべてが、この三つに気づかせるために起きているのです。

#### 4、原因と結果の法則

この宇宙には、きっちりとした法則が存在します。それは、宇宙を秩序立てている「原因と結果の法則」です。この法則を犯せば、不幸という苦しい結果がやってきます。守

れば、幸せという結果がやってきます。原因と結果の法則を守って生きれば、人間界に不幸などないのです。賢い者は、法則を守り幸せな人生を送っています。愚かな者は法則を犯し、苦しい人生を送っています。誰のせいでもありません。みな自己責任です。でもそのことを知らない者は、自分で不幸を作りながら、人のせいにしたたり、偶然のせいにしたりして、自己責任から逃れているのです。でもどんなに逃げても、逃げられるものではありません。法則を犯せば、必ず痛み苦しみがやってきます。外から与えられた不幸など一つもないのです。すべて身から出た錆です。なぜこうもクドクド言うのかといいますと、人間は自らが作った不幸を人のせいに行っているからです。この宇宙に、偶然や不可抗力は無いのです。すべて必然です。原因あつての結果です。「因果の法則を犯せば悪いことが起き、因果の法則を守れば良いことが起きる」これは間違いないことなのです。火の無い所に煙が立たないように、事が起きるからには起きるだけの原因

が必ずあるのです。戦争も病気も事故も事件も災害も、すべて原因と結果の法則(因果の法則)によって起きていることを知ってください。

## 5、宇宙生命の最終目的

では宇宙生命は、最終的に人類に何を望んでいるのでしょうか？ それは、理想の世を築いてもらうことを望んでいるのです。そのためには、どうしても己の本性に目覚めてもらわなくてはなりません。そこで宇宙生命は、難解な病気を与え疑問を持たせるよう仕向けたのです。病気治療が難しければ難しいほど、深く疑問を持ち真剣に人生の思索を始めるようになるからです。人類に万能の薬が与えられないのはそのためです。ですからどんなに医学が進歩しても、人類が己の本性に目覚めない限り地球上から病気が無くなることはないでしょう。といっても人類は、いつまでも幼いままではありません。

苦しみや悲しみを通して大人になり、自分の本性に目覚める時が必ずやってきます。その時こそ、地球に理想の世が作られるのです。

このように宇宙生命は、壮大な計画を持って目的を遂行しようとしているのです。それはそれは、気の遠くなるような時をかけた一大事業です。人間の目は近視眼的にできていますので、計画の全容は見えないかも知れませんが、宇宙生命は間違いなく人類を  
行くべき処に運んでいるのです。



## 第二章 病気の実体

### 1、病気の原因

さて、私たちの本性が宇宙生命であることを知りました。宇宙生命の目的も知りました。また、病気の持つ意味を知りました。といっても病気にはなりたくないし、苦しい病気から生還したいのも人情です。では病気の直接の原因は何でしょうか？

病は『気』からと言われるように、『気が』不足することによって起きているのです。『気』とは生命エネルギーのことですから、病気は生命エネルギーの不足によって起きているのです。ではエネルギー不足になると、なぜ人間は病気になるのでしょうか？

私たちはボディーが生きてボディーが働いていると思っいますが、ボディーは生きてもいないし働いてもいないのです。生きて働いているのは、ボディーの中に宿ってい

る生命意識です。つまり、生命エネルギーが働いているのです。車がガソリンというエネルギーによって動かされているように、人間も生命というエネルギーによって生かされ働かされているのです。だから生命力が弱くなれば、働きが鈍くなって病気になるってしまうのです。老人や脆弱な人が、感染症にかかりやすいのはそのためです。

もう一つ、私たちは薬が病気を治すと思っていますが、薬で病気が治ることは絶対ありません。薬は狂った生命力(自然治癒力)を正常化する働きをしているだけで、実際に病気を治しているのはボディーの中に備わっている生命力です。風邪を治しているのも、傷を治しているのも、みな生命力のお陰です。では、その生命力(エネルギー)を強めたり弱めたりしているのは何でしょうか？

それは人の心です。想いです。考え方です。生き方です。たとえば、「怒り・ねたみ・そねみ・嫉妬・恨み・憎み・心配・恐怖・イライラ・過度の欲望」などの悪的思い、「年

を取れば病気になるのは当然だ！」といった先入観、「人間は弱いもの、傷つきやすいもの、病気になるやすいもの、」といった暗示的思いが生命力を弱めているのです。このようなネガティブな想いを持つのは、自分のことをか弱い人間だと思っているからです。か弱い人間だと思えば、想いは創造の力ですから、どうしても生命エネルギーを低下させてしまうのです。

## 2、病気は想念病である

ではどうして病気になるのでしょうか？ 先程述べた原因である光とは、想念のことなのです。その光である想念が、結果である病気(影)を作っているのです。だから私は、病気はみな「想念病」だということです。それは、その人の想念(心)が病気になっているという意味です。

私たちは、想念を持っています。その想念は、使い方がんで毒にも薬にもなる力を持っていますのです。しかもその想念は、自由意志で使えるのです。自由意志で使えるがゆえに、自由意志を持っていて人間は病気を作ってしまうのです。人の幸不幸を握っているのは、この想念なのです。それほど想念は、恐ろしくもあり頼もしくもあるのです。それゆえに、すでに私たちは救われているのです。正しく使ったら誰もが幸せになれるからです。人の想念が病気を作っていることが解れば、おのずと病気にならない方法も、病気を治す方法も見えてくるはずですが、今地球には、様々な治療法がありますが、これは魂の熟成度によって使う治療法が違ってくるからです。では今地球上には、どのような治療法があるのでしょうか？

### 3、人類が使っている治療法

今人類が使っている治療方法には、大きく別けて2つあります。一つは、他力治療法、もう一つは自力治療法です。他力治療法とは物理的治療法のことですが、この治療法は結果対処の治療法ですから、根本治癒を期待することはできません。自力治療法とは精神的治療法のことですが、この治療法は原因対処の治療法ですから、根本治癒が期待できません。ちなみに物理的治療法と精神的治療法には、次のような種類の治療法があります。

○物理的治療法・・・現代医学・カイロプラステック・ホメオパシー・漢方治療・鍼灸治療など・・・。

○精神的治療法・・・宇宙エネルギー治療・心霊治療・想念治療・言葉による治療(リーディング)・真理による治療・悟りによる治療

このように今地球では様々な治療法が用いられているわけですが、結果対処の他力治療法が殆どです。この治療法では根本治療は期待できません。これから紹介する原因対処の自力治療法は、根本治療が期待できると同時に魂の進化に結びつく二重三重の益のある究極の治療法です。とはいっても、どの治療法も最終的には生命力に依存しているのです。生命力が無ければ、どんな治療法でも治らないのです。生命力が宇宙を働き働かし存在させているわけですから、生命力なしには私たちは生きられないのです。このことだけは知っておいてください。

#### 4、生命力とは？

ではその偉大な生命力とは何か、具体的に説明したいと思えます。

生命力とは、神の力のことです。言い換えれば、エネルギーのことです。神はエネルギー

ギーそのものだからです。その生命力(エネルギー)は、表現宇宙の隅々に行き届いており、鉱物・植物・動物・人間など、すべての存在物はその生命力によって生かされ働かされているのです。生命力なしに、花は咲かないし、鳥は羽ばたかないし、地球は回転しないし、私たちの肉體細胞も心臓も働かないのです。しかもその生命力は、完全な働きかできないのです。なぜなら、神は完全だからです。エネルギーは完全だからです。だから本来、生命を宿している生き物が病気になることはないのです。よく自然治癒力という言葉を目にするとありますが、それは生命力のことなのです。風邪を治しているのも、傷を治しているのも、みな生命力の働きによるのです。いや、病気になるようにしている、免疫とか、抗体とか、耐性とかいうものも、生命力の働きによるのです。このように生命力が、病気になるなくしたり、病気を治したりしているのです。それほど生命力は凄い力を持っているということです。どうか、この生命力の凄さを知ってく

ださい。

では、究極の治療法の基本的知識を得たところで、これから三つの究極の治療法についてお話することにししましょう。いずれも、精神・心・による自力治療法です。

1、想念による治療法。

2、言葉による治療法。

3、真理による治療法。

4、悟りによる治療法です。

4の悟りによる治療法は、当然一般向きではないし、学んでいる人にも無理かと思えますので、ここでは触れないでおくことにします。



## 第三章 究極の治療法

確かに生命力が病気を治しているわけですが、大切なのは病気を治すことではなく、病気にならないようにすることではありませんか？ つまり、病になる原因を作らないようにすることが、大切だということです。病気にならなかつたら、お金もいらぬし、手間も時間もいりません。これは賢い人なら、分かるはずでです。これから述べる三つの究極の治療法は、病気にならない方法であり、たとえ病気になっても、自力で治す治療法です。それも、人だより、モノだより、医学だよりではなく、自分だよりの治療法です。そのことを知っておいてください。

## 1、想念による治療法

### ○琴(コト)のはじまり

神の世界は、鏡のような真っ平らな世界です。真っ平らな世界ですから、そこには何一つ波風がありません。ですから、何も産まれないので、そこには何も存在しないのです。そんな何も無い世界に何の意味がありますでしょうか？ 神はこう想いました。これでは私の存在が無いのではないかと・・・そこで神は、表現世界を創ろうと思いい立ったのです。神は自分の想念を動かしました。つまり、想念波動を使って物質世界を創ったのです。こうして、この宇宙に表現世界が誕生したわけですが、それはすべて神の想念によって誕生したのです。その神と同じ想念を持っているのが私たちなのです。

「信念」という言葉がありますが、この言葉の「信」という文字の意味は言うまでもな

く、信じることです。一方「念」という文字の意味は、「想うこと」「念ずること」つまり想念することです。通して解釈すれば「信念」とは、「想念を信じること！」という意味になります。「いわしの頭も信心から」と言われるように、想念は物事を成就する力があるのです。「念ずれば花開く」とか「念ずれば叶う」と言われるのも、想念そのものが理念であり、物の素材であり、創造の力だからです。事実、想念によって飛行機や船やビルなど、様々なモノが作られているではありませんか。また、想念によって戦争・テロ・事件・事故・災害・病気などの惨事も生まれているではありませんか。想念は、良いことも悪いことも何でも生み出すのです。なぜ冒頭にこのような話を持ち出したかといいますと、想念の偉大さが信じられなくては、これから話すことが絵に書いたボタモチになってしまうからです。もし病気になりたくなくなったら、また病気を治したいと思うなら、ぜひ想念の偉大さを知ってください。そして正しい想念を持つよう心掛けてく

ださい。正しい想念を持てば、病気になることは絶対ありません。では、どのような想念を持てば病気にならずすむか、なっても治すことができるか、具体的に述べることにしましょう。

### ○想念を良いことに使う

私たちは、常に何かを思っています。思わないでいられる人など、一人もいません。皆さんは、その思いを何に使っていますか？ 殆どこの世の事に使っているではありませんか？ それも心配したり、憂いたり、怒ったり、恐怖したり・・・その悪しき思いが病気にしているのです。

想念は何でも作るのです。良いことも悪いことも・・・もし想念を動かさなければ、何も作られないでしょう。たとえば、あなたが何も思わなかったら、一切の不幸災難か

ら離れられるでしょう。勿論、病気などならないし、たとえ不治の病にかかっていたとしても治ってしまうでしょう。しかし私達は、5分と何も思わないでいられません。ならばその想念を、良いことに使ったらどうでしょうか。良いことに使ったら、良いことがやってきます。どうか想念を、明るいことに・建設的なことに・ポジティブなことに・夢溢れることに使ってください。

### ○良いことを思い続ける

私たちは何でも思えます。でも、同時に二つのことは思えません。良いことも思い、同時に悪いことも思えないのです。これが想念の良い点でもあり、悪い点でもあるのです。同時に二つのことを思えないということは、悪いことを思っている時は良いことを思えず、良いことを思っている時は悪いことは思えないということです。この想念の性

質をどうか利用してください。つまり、常に良い想念を持っていることです。想念の恐ろしさを知った賢い者なら、良いことを想い続けられるはずです。さあ、明るい想い、建設的な想い、肯定的な想い、ポジティブな想いを持ち続けてください。何よりも一番良いのは、神を想い続けることです。

### ○良い思い癖をつける

同じ想念を繰り返し使えば癖が生まれます。つまり、業が生まれるのです。悪いことを思い続ければ悪い業が・・・良いことを思い続ければ良い業が・・・。これが、思いグセという業です。この思いグセが、人生を明るくも暗くもしているのです。慢性病を引き起こしているのは、悪い思いグセです。良い思いグセをつけるか、悪い思いグセをつけるかは、あなたが想念をどう使うかなのです。それは、あなたの自由意志でできるの

です。ぜひ、良い思い癖をつけてください。

### ○自分が自分を苦しめていることを知る

世の中には、**“なぜ私はこんな不遇な環境のもとに生まれ苦しまねばならないのだ！”**と嘆いている人がいますが、その人はその苦しみが誰かのせいになつたと思つているのです。だから、親を恨み、人を恨み、世を恨み、神まで恨んでいるのです。でも、誰もその人を苦しめていません。苦しめているのは本人自身です。つまり本人の悪想念が、不遇な環境を呼び込み苦しませているのです。想念は自由に使えます。何の制限も制約も束縛もありません。誰にも邪魔されないので使えるのが想念なのです。その自由な想念を良く使えば、幸せになれるのです。苦しみを人のせいにしないうでください。さあ、良い想いを持ちましょう！

## ○周りの悪的想念に気をつける

情報社会といわれる今日、多くの人たちが情報に扇動され、無意識のうちにネガティブな想いを出しています。そのために、ますます事件や事故が増えています。ネガティブなことを想えば、事件事故災難がやってくるのです。今日、年に数万人もの自殺者を出していますが、すべて悪想念による惨事です。地球の周りには様々な想いの波動が飛び交っており、同じような波動に出合うと同調するのです。自殺願望の想いと、周りの悪的波動が同調して自殺まで発展しているのです。交通事故もそうです。工事現場の事故もそうです。殺人も強盗も戦争もそうです。みな悪的想念が同調して起きている惨事なのです。そんな怖ろしいことに想念を使わないでください。使うなら、楽しいことに、ポジティブなことに使しましょう。



## ○自分の想念に責任を持つ

気象異変がますます深刻化しています。火山の噴火や地震も頻繁に起きるようになっていきます。また、その規模も拡大しています。私たちの想念は、雨にも風にも影響を与えているのです。人類が良い想念を出している時は、雨も風も穏やかに降り穏やかに吹きます。しかし悪い想念を出せば、激しく降り激しく吹くようになるのです。自然界はそのことを、反面教師となって人類に教えてくれているのです。異常気象を他人事にしないでください。どうか、あなたの一瞬一瞬の想いに責任をもってください。

大都会の空気が重いのは、悪想念が多く漂っているからです。田舎の空気が軽いのは、悪想念が都会より少ないからです。良い想念は軽いのです。悪い想念は重いのです。どうか良い想いを持って、あなたの周りの空気を軽くしてください。良い想念の一番は、神を想うことです。そのときあなたは、白い息を吐いているのです。悪いことを思っ

いる時は、黒い息を吐いているのです。黒い息を吐きながら、「私は苦しい！」と泣き言をいわないでください。一瞬一瞬の思いが、あなたの人生を作っていることを知ってください。

### ○感謝の思いを持とう！

「ありがとう！」と書いたコップの水が長持ちし、「バカヤロー！」と書いたコップの水が腐りやすいのは、人の思いが念写として残るためです。いかに想念の力が怖ろしいか、この実験からも分かるうというものです。

あなたの着ている服も靴もメガネも、あなたの周りにいる猫も犬も小鳥も、勿論あなたの肉体細胞も、すべてあなたの想念の影響を受けているのです。良い想念を持てば、あなたの肉体細胞は勿論、あなたの周りに存在するすべてのモノが、喜ぶのです。喜ぶ

ということは、良い働きをしてくれるということです。良い環境になるということです。健康になるということです。良い人生になるということです。どうか、感謝の思いを持ってください。感謝の思いは波動を高めます。浄化します。幸せを持ってきます。これは想念の力からして、間違いないことなのです。

### ○想念の恐ろしさを知る

感謝の念を持って耕した畑は実りが多く、無感謝の念をもって耕した畑は実りが少ないのです。戦場の跡地からあまり作物が採れないといわれるのも、戦った者の恐怖や無念の思いが残っているためです。それほど想念は、後々まで影響を与えているのです。もしあなたが、不平不満を持って食べ物を食べたなら、大変な毒を体内に作り出すでしょう。もし喜んで感謝して食べたなら、あなたの肉体細胞は光輝くでしょう。これは間違い

ないことなのです。

欲念を持って飼った牛の乳は栄養価が低く、愛念を持って飼った牛の乳は栄養価が高いのです。お母さんの握ったオニギリがおいしいのも、お母さんの愛念がしみ込んでいるからです。もしあなたが家族の食事を作るなら、楽しい気分で、嬉しい気分で、明るく朗らかな気分で作って上げてください。きっと、家族の健康が促進されるでしょう。

### ○神経質にならない

社会で高い地位を占めている人の言葉ほど、人々に強い影響を与えることはありませぬ。たとえば、医者が患者に絶望的な話をしたら、患者の命を縮めるほどのダメージを与えてしまうのです。テレビでアナウンサーが、「風邪に気をつけてください」とか、「花粉に気をつけてください」とか、いいますが、これは聴いている人に暗示を与え、

本当に病気にしてしまうのです。それほど、言葉の力は怖ろしいのです。それは、言葉の前にあるのが想念だからです。決して一秒たりとも悪想念を持ってはなりません。そのつけは、間違いなく自分に返ってくるのですから・・・。

今、地球では腐敗が急激に進んでいます。人の想念が陰に傾けば、エネルギーのバランスが崩れるため、腐敗が進むのです。陰的想念とはいってもなく、ネガティブな想念のことです。昔は今よりも、食べ物の日持ちがしたのです。しかし今は、当時に比べ腐敗のスピードが増しています。これは、農薬や化学肥料の使用によるエネルギー低下も原因の一つですが、賞味期限に神経質になっていく人の想念が、腐敗に拍車をかけているのです。人の想念がポジティブであれば、これほど腐敗は進まないのです。これは花粉病にもアレルギー病にも、いやすべての病気にもいえることなのです。ネガティブな情報が神経質な想念を誘い、病気を重くしているのです。たとえ賞味期限が少々切れ

ていても、気にしないことです。昔は気にしないで食べていたのですから・・・その頃のほうが食あたりは少なかったのです。

### ○想念移入の恐ろしさを知る

世間には凶暴な犬がいますが、これは飼い主の想念の影響を受けているためです。近年犬や猫が糖尿病になったり、歯槽膿漏になったり、風邪を引いたりするようになりましたが、これも人間の悪想念の移入によるのです。その人の家の中を見れば、その家族の心の状態が解るように、その家の住人の想念がもろに現れるのが、表現世界なのです。このようなこともあります。欲念を多く受けた宝石は曇り、愛念を多く受けた宝石は輝くというようなことが・・・。花や木も優しく扱うと長持ちし、邪険に扱うとあまり長持ちしません。このように想念の持ちようで、鉱物や植物や動物にも影響を与えるので

す。これは宝石や花や木だけではありません。今や空気や水や土までも、人間の悪想念によって汚されているのです。台風を人のせいにしないでください。竜巻を人のせいにしないでください。雷を人のせいにしないでください。地震を人のせいにしないでください。自分の周りで起きていますすべての事象を人のせいにしないでください。自分が絡んでいない事象など無いのですから……。

よく子供のことを心配する親がいます。子供がチヨット家に帰るのが遅くなると、何かあったのではないかと心配し、チヨット咳をすると、風邪を引いたのではないかと心配します。この心配の念が、どれほど子供に悪影響を与えていることでしょうか。神経質な親に育てられた子は、どうしても病弱になるのです。親の心配の念が移入し、子供を弱くしてしまうからです。世の人々は、心配してやるのが良いことだと思っています。また、心配される方もそれを望んでいます。でもこれは逆効果なのです。何事も良く受

け取ることです。何事も進化のために必要な良いことだと思いうことです。決してネガティブに考えないことです。このように自分の悪しき思いが、周りの環境にどれほど悪影響を与えているか？ よく自省してほしいものです。

### ○想念の作品であることを知る

想念の影響が端的に現れるのが、スポーツ競技です。アスリートの気持ちが見えなくなれば、自分たちの都合の良い方へボールが転がり、暗くなれば、都合の悪い方へ転がります。だからスポーツ競技では、連勝連敗がつきものなのです。私たちの普段の生活においても、悪いことが起きれば悪いことが続けて起こり、良いことが起きれば良いことが続けて起きる、といったことが良く見られます。すべて想念がやっていることなのです。こんなこともあります。人のアクビにつられ、人のクシャミにつられ、自分もした



くなることか・・・、これは外側の現象につられ、自分の思いが動くからです。よく柳の木を幽霊と見間違え肝を冷やすことがあります、これは想念が肉体に影響を与える顕著な例の一つなのです。心配すれば、胃が痛みます。恐怖すれば、心臓の動悸が激しくなります。憎んだり怒ったりすれば、腎臓や肝臓の機能が低下します。病気は、すべて想念の作品なのです。

### ○意識を内側に向ける

インターネットや携帯電話真つ盛りの地球では、日々悪想の垂れ流し状態になっています。この状態が続けば、地球は破壊されてしまうかもしれません。事実、テロ、暴動、事件、事故、病气、自殺、自然災害が増大しているではありませんか。

よくテレビや映画で残虐な殺人現場を見せられますが、これほど人の心に悪意を植え

付けることはないのです。想念のコントロールができない今の地球人に、そのような残酷な殺人を見せれば、それはその人達の心にそのような残酷な意識を植えることになり、ひいてはそれが原因となって、実際に殺人を引き起こさせることになるのです。事実、その影響を受け殺人を犯している人たちの後が絶たないではありませんか。勿論、戦争もその影響を受けて引き起こされているのです。

人間は、人類は、あまりにも情報の管理がずさんすぎます。想念の管理がずさん過ぎます。要らぬ情報は受け取らないことです。要らぬ情報は発信しないことです。情報を欲しがるのは、人々の心が寂しいからです。心に空白があるからです。できるだけ意識を内側に向けてください。そうすれば、心がやすらぎます。

## ○良い部分を見るようにする

人は思いもよらぬ不幸に出会うと、動揺し、心配し、殆どの人がネガティブな想いに傾いてしまいます。ネガティブな想いは生命エネルギーを弱めるわけですから、ますます状況が悪化します。ネガティブな想念を持たないようにするには、悪い部分を見るのではなく、悪い部分の背後に息づいている良い部分を見るようにしましょう。たとえば苦しいとき、「意味の無い苦しみは無いのだから、この苦しみには必ず意味があるはずだ！」とポジティブに考えてください。きっと心が安らぐはずです。安らぎが戻ったら、ではこの苦しみは、一体私に「何に気付きなさい」と言っているのだろうか？ 何を正しなさいと言っているのだろうか？ 何を望んでいるのだろうか？」と自分に問いかけて見てください。きっと苦しみの意味が見えてくるはずですよ。

ここまで想念の使い方について述べてきましたが、想念を良く使えば、何もしなくても病気にはならないし、病気になっても治るのです。私が一番に言いたいののは、どんなことも良く受け取り、決して悪想念を持たないようにすることです。良い想念を持たず、病気になることはないからです。これしかないのです。

すでに述べましたように、病気は想念病です。悪的想念が病気を生み出しているのです。この想念のコントロールができれば、私たちに不幸はないのです。たしかにこの社会には、沢山の悪しきことがあります。でもそれを、悪と受け取ってはならないのです。なぜなら、悪は善たらしめる悪だからです。悪は悪ではないし、不幸は不幸ではないのです。よく考えてみてください。人は不幸の中でこそ大きく飛躍できるのですよ！ 苦しいから成長できるのですよ！ だから不幸を悪く捉えるのでは無く、自分を成長させるチャンスだと考え、凶を吉に変えることです。それが解れば、もうネガティブな想念

を持たなくなるでしょう。持たなくなれば、精神的にも肉体的にも健全健康になります。これは誰がやるのでもありません。自力でやるのです。だから自力の治療法だということです。

## 2、癒しの言葉(リーディング)による治療法

ここでは、言葉を持ってあなたの魂に訴えかけます。訴えかけた言葉が魂の底に落ちたら、意識にも肉体にも変化が起きてきます。なぜそのようなことが起きるかといいますが、人の思いを言葉によって誘導することによって、準覚醒状態にすることができからです。つまり、言葉によって一時自然法則外に出すことによって意識に変化を生じさせることができるからです。勿論、人それぞれ理解力が違いますから、すべての人に変化を生じさせられかどうかは分かりませんが、可能性は大いにあるのです。言葉は神

なりきです。言葉は神にしか無いのです。その神から来ている言葉には、神の想いがこもっているのです。エネルギー(光)がこもっているのです。その言葉を文字にしたのが癒しの言葉ですから、強烈なエネルギー(光)がこもっています。どうか、これから述べる癒しの言葉を良く噛んで味わってください。きっと、意識に変化が起きるでしょう。意識に変化が起きれば、肉体にも変化が起きてきます。そのこと信じて読んでください。

### ○偉大な生命力で満たされている

生命力は光です。エネルギーです。その生命力は、何でも創ります。何でも成し遂げます。何でも生み出します。何でも蘇らせます。何でも癒します。その偉大な生命力が、今あなたの身体の中で生きて働いているのです。つまり生命力が、肉体細胞一つ一つにエネルギーを、光を、注ぎ込んでいるのです。だから、あなたの肉体細胞は健全健康で

す。さあ、今私の身体は、「目が眩まればかりに、光り輝いている！ 光り輝いている！ 光り輝いている！ はちきれんばかりのエネルギーで満たされている！ 満たされている！ 満たされている！」と思ってください。実際そのようなのですから・・・。

### ○偉大な生命力が支配している

生命は宇宙をも創造する偉大な力を持っています。その生命が、生命力として私たちの肉体を支配しているのです。だから、病気などなるわけがないのです。

- あなたの肉体細胞は、偉大な生命力によって支配されているのです。
- あなたの肉体細胞は、偉大な生命力に満たされ光り輝いているのです。
- あなたの肉体細胞は、それはそれは神々しく光り輝いているのです。
- あなたの肉体細胞は、まるで水晶のように一点の汚れもないのです。
- あなたの肉体細胞は、完璧な働きをしているのです。

さあ、「私の肉體細胞は生命力に満たされ光り輝いている！」と思ってください。

「生命力を信じなさい！」

「生命力に任せなさい！」

「生命力に委ねなさい！」

### ○想念は実現の母

想念は実現の母です。なぜ想念は実現の母かといいますと、想念は何でも創造することのできるエネルギーだからです。力だからです。想念は、もの凄い力を持っているのです。その想念の力を利用することです。もし今体が痛んでいたら、「痛みを思わない！ 思わない！ 思わない！」「痛くない！ 痛くない！ 痛くない！」「苦しくない！ 苦しくない！ 苦しくない！」と思うことです。そうすれば、痛みや苦しみは半減し



ます。想念は、痛みや苦しみまで解消させる力を持っているのです。

### ○病気など無い！

完全な神が創られた宇宙に、病気などあるわけがないのです。もしあるなら、神は不完全となって消えていってしまうでしょう。この宇宙に不幸などないのです。病気など無いのです。神が完全であるということは、そういうことなのです。繰り返します。神は完全です。宇宙は完全です。心の底でそう思えたら、病気は消えてゆきます。さあ、「病気など無い！ 病気など無い！ 病気など無い！」と想いましょう。あるのは、「健全健康な肉体だけです」あなたの肉体は、間違いなく今健全健康なのです。一つの欠陥も無いのです。一つの齟齬も無いのです。どこの細胞も光り輝いているのです。どこの器官も光り輝いているのです。どこの臓器も光り輝いているのです。これは間違いない

ことなのです。

○神は偉大な生命力を与えてくれている

私たち一人ひとりには、無限力が秘められた生命力が与えられています。なのにどうして必要以上に体に気を使うのでしょうか。病気になるようにと、目の色を変えサプリメントや薬を買いあさるのでしょうか。それほど神が創られた肉体が信じられないのですか？・・・。

人は動けば動くほど元気になるようにできています。肉体は使えば使うほど丈夫になるようにできています。使わなかったら、かえって錆びてしまうのです。少々のことで壊れないようにできてるのが、神が創られた肉体なのです。神が創られた肉体は、幅の広い許容量を持っています。なのに心配し、恐る恐る肉体を使うから病

気になるのです。神が創られた肉体は、ものすごい許容量を持っているのです。少々のことまでへこたれない、強さを持っているのです。その許容量を信じてことです。私の身体は「ものすごい許容量を持っている。ものすごい潜在能力を持っている。使えば使うほど、強くなる！ 強くなる！ 強くなる！」使えば使うほど「頑健になる！ 頑健になる！ 頑健になる！」使えば使うほど「力が漲る！ 力が漲る！ 力が漲る！」と想い続けてください。

### ○生命力に委ねる

私たちの本性は生命ですから、私たちの中には偉大な生命力が備わっています。その生命力に何もかも委ねることです。任せることです。預けることです。心から委ねれば、偉大な生命力が働き出します。こう思いましょう。「私は生命そのものだから、私の中

には偉大な治癒力が備わっている。その治癒力にすべてを委ねます！」と・・・ 生命  
力に委ねるとは、本当の自分に委ねることです。私たちの本性は生命ですから、心から  
生命に委ねれば、自分の本性が目覚めますのです。それは、自分と生命が一つになっ  
たからです。一つになれば、閉ざされていた回路が開き、エネルギーが流れてくるので  
す。どうか生命力を信じ、生命力に委ねてください。自分(肉体)で生きようとしないでくだ  
さい。自分(肉体)で生きようとすれば力みが入ります。力みは生命エネルギーを閉ざしま  
す。力んで生きれば生きるほど、生命力を手放すことを知ってください。任せましょう。  
委ねましょう。所詮、自我のあなたの力では何もできないのですから・・・このように  
想一想いましょう。

今、ただ今から「私の肉体を生命に、預けます！ 預けます！ 預けます！ 任せま  
す！ 任せます！ 任せます！ 任せます！」「ああ、今、生命が働き出した！ 生命

が働き出した！ 生命が働き出した！ だから私の肉体は、もう健全健康だ！ 健全健康だ！ 健全健康だ！」と想い続けることです。

### ○細胞は神の住処

私たちの肉体細胞は、神が表現されたものですから、神自らが肉体細胞になっているのです。だから肉体は、神そのものです。その肉体が、どうして病気になるのでしょうか？ もし病気になるなら、神は不完全になってしまいます。そんな神がいるわけがないのですから、肉体はどこまでも完全なのです。さあ、完全なる神が肉体の中で働いていると思ってください。そう思えば肉体は完全な働きをしましょう。

「何を食べても完全に消化する！ どんなに傷を負っても復元する！ どんなにこき使ってもへこたれない！ 私の肉体は、強い！ 強い！ 強い！ 強い！ 頑丈だ！ 頑丈だ！

頑丈だ！」と想い続けてください。実際、神が創られた身体は頑健なのですから・・・。  
神が創られた肉体の働きを信じることです。良い働きをしてくれると信じ、神に任せ  
ることです。神に委ねることです。

### ○肉体は完全な働きをしている

あなたは今、自分のことを人間だと思っていますね。それは自我の思いです。でもあ  
なたの本性は神ですから、その自我の思いは神と等しい力を持っているのです。だから  
悪的想念を持てば、神の力で生かされている肉体細胞さえも、病気にしてしまうのです。  
それほどあなたの想念力は偉大だということです。その偉大な想念力を良く使ってくだ  
さい。良く使えば、肉体は完全な働きをします。今まで病で苦しんでいたのは、悪的想  
念を肉体に介入させていたからです。悪的想念を介入させなかったら、肉体は完全な働

きをするのです。それは、神意識で生かされている細胞は完全に働くようにできているからです。だから、肉体に何が起きてても心配しないことです。一番いいのは、何も思わないことです。思うとしたら、神意識で生かされている細胞は、良い働きをしてくれていると思うことです。すべて良いようにやってくれると思うことです。実際に良い働きしかないのですから・・・。

さあ、神が支配している細胞は、「完全な働きをしている！ 完全な働きをしている！ 完全な働きをしている！」と想い続けてください。

○**神の意識は絶対善です。完全意識です。**

神の意識は絶対善です。完全意識です。その意識に満たされて肉体細胞は、当然絶対善であり完全です。だから本来、肉体が病気になることはないのです。あなたの悪的想

念さえ介入させなければ・・・。

もし肉体に異変が起こったら、この異変は自分の悪的想念の介入によるものだと感じづくことです。気づいたら、自分の思いを神の完全な意識の中に放り込んでください。神の意識と一体にしてください。つまり、「吾神なり！ 吾神なり！ 吾神なり！」と想い続けることです。そう想えば、神の意識と一体になるので、あなたの悪的想念は神の意識の中に溶け込んで消えてゆきます。消えてゆけば気持ち良くなります。もうあなたの肉体に、一片の闇(病)も無いでしょう。そうなるのは、神意識そのものが善の塊だからです。完全の塊だからです。

ああ、私の悪想念が神の意識の中に「溶け込んでゆく、溶け込んでゆく、溶け込んでゆく、気持ちが良い！ 気持ちが良い！ 気持ちが良い！ 気持ちが良い！ もう一つの悪想念も、浮かばない！ 浮かばない！ 浮かばない！」と想い続けてください。



○不完全は何をしなくても消えてゆく

神が創られた宇宙は完全です。絶対善で満たされています。その宇宙に悪があると思えますか？ ありません。そこにあるのは絶対善のみです。完全のみです。そんな完全の中に、不完全も、悪も、生まれるわけがないのです。生まれるとしたら、不完全の中にのみ、悪の中にのみ、生まれるのです。

あなたが悪想念を持つから、悪想念の中に不完全が生まれ、悪が生まれるのです。それが、あなたの宇宙(身体)を汚すのです。病気にするのです。あなたが作った悪の住処です。悪は悪の住処にのみ生まれるのです。完全の中には、善の中には、不完全も悪も生まれようがないのです。

でも心配しないでください。あなたが作った不完全も悪も、実在するものではないからです。あなたの迷いが生み出した一時の不完全であり悪ですから、迷いさえ解ければ、

黙っていても消えてゆくのです。消す必要はありません。あなたの中に完全を持ってきたら、不完全は黙っていても消えてゆくのです。

完全とは、神の思いです。善とは、神の思いです。完全の思いを持ってきたら、そこには完全しか生まれません。悪の中に悪が生まれるように、完全の中には完全しか生まれません。

苦しくなったら、神を想ってください。苦しみを、神の想いの中に放り込んでください。つまり、「吾神なり！ 吾神なり！ 吾神なり！」 「吾完全なり！ 吾完全なり！ 吾完全なり！」と想いを投げ入れてください。そうすれば、苦しみも痛みも溶けて無くなってしまいます。

## ○想いがすべて

思いほど速いものではありません。思った瞬間原子が集められ、思ったものを創造するのです。想いは何でも作るのです。想念は製造機なのです。良いことを想えば良いことが作られ、悪いことを想えば悪いことが作られるのです。それだけに良いことを想わねばならないのです。

どうせ作るなら、良いモノを作りましょう。良いモノの一番は、神です。神を想っている限り、決して悪いことはやってきません。もしあなたが、一日中神を想っていたら、その一日は良いことばかりやってくるでしょう。その日が一年重なれば、良い一年になるでしょう。その日が一生重なれば、もうあなたの人生はバラ色に満たされることでしょう。想念は実現の母です。これは間違いないことなのです。

## ○自分の中に完全がいる

この世は現象の世界です。想ったことが現れる世界です。だから良いことを想えば良いことが現れるのです。この世界はみな幻です。そんな幻に惑われ自分の宇宙(心)を汚してはなりません。汚せば、苦しむのは自分自身だからです。どうか想念の管理をしてください。決して悪い想念を持たないことです。それは自分の自由意志でできるのです。たとえ外側からどんな悪的なものが入ってきてても、想念を管理していたら、自分の宇宙が汚されることはないのです。想念の管理が大切なのは、自分の宇宙を汚させないためです。汚さなかったら、不幸災難など他人事になるのです。

こう思ってください。自分の中に完全があると・・・。神は完全であり、光であり、エネルギーですから、私は今「完全の中にいる！ 完全の中にいる！ 完全の中にいる！」私は今「光の中にいる！ 光の中にいる！ 光の中にいる！」私は今「エネルギーの中

にいる！ エネルギーの中にいる！ エネルギーの中にいる！」だから「健全健康である！ 健全健康である！ 健全健康である！」と想い続けてください。想念があなたの肉体を、そこに連れて行ってくれるでしょう。もう安心です。安泰です。

### ○生命力は靈太陽から来ている偉大な力である

あなたの肉体細胞は生命力で満たされているのです。その生命力は、靈太陽から来ているのです。あなたの肉体細胞一つ一つは、その靈太陽に満たされ輝いているのです。だから、一片の闇もないのです。健全健康そのものです。自分の肉体細胞が光り輝いているとイメージしてください。事実あなたの肉体細胞は、光り輝いているのですから……。それは、あなたの肉体細胞の中に靈太陽があるからです。肉体細胞は原子で出来ていません。その原子一つ一つの中に靈太陽が存在するのです。その靈太陽は天につながって

るわけですから、あなたの肉体細胞は天につながっているのです。そんな肉体細胞が病気になるわけがないのです。

霊太陽はエネルギーそのものです。光そのものです。だから、あなたの肉体細胞はエネルギーそのもの、光そのものなのです。エネルギーに満ち満ちているのです。光に満ち満ちているのです。あなたの身体は、光り輝いているのです。あなたの身体は、どこまでも健全健康なのです。

ああ！ 私の肉体細胞は「霊太陽に包まれ光り輝いている！ 光り輝いている！ 光り輝いている！ 弾けんばかりのエネルギーで、満たされている！ 満たされている！ 満たされている！」と想い続けてください。

## ○天から来ている完全な力

今あなたは紛れも無く生きています。今完全だから生きています。今不完全なら、一秒と生きていられないのです。その生かしている力は、天から来ています。生きるモノの中に、必ず天がおられるのです。神がおられるのです。生命がおられるのです。ということは、あなたの中に天が、神、生命が、おられるということ。その天が、神が、生命がおられるあなたが、病気になると思いますか？ もし病気になるなら、天は、神は、生命は、不完全になってしまいます。そんな不完全な、天が、神が、生命が、おられるわけがないのですから、あなたはどこまでも健全健康なのです。生きていますから、今存在できているのです。生きていなかったら、今存在できていないのです。存在していること自体が、生きている証なのです。

私の中に「天がいる！ 神がいる！ 生命がいる！ だから私は完全である！」と想

ってください。「天が働いている！ 神が働いている！ 生命が働いている！ だから私は健全健康である！」と想ってください。どうか、天が、神が、生命が働いている、自分の身体に自身を持ってください。

### ○完全な意識を持っている肉体細胞

肉体細胞の中で、完全な生命が生きて働いています。だから細胞は、どこまでも完全なのです。細胞自身も、完全だ！ 健全だ！ と思っっているのです。その細胞意識に体を任せましょう。委ねましょう。委ねれば、肉体細胞は完全な働きをします。その完全な細胞に、あなたのネガティブな想いがチョッカイを出すから、「私が信じられないのか!!」と細胞が横を向いてしまうのです。

細胞の感情と、あなたの感情は、何も変わらないのです。良いことを想えば喜ぶし、



悪いことを想えば苦しむのです。もう細胞にチョッカイを出すのを止めましょう。細胞は偉大な力を持っているのですから、その偉大な力を持っている細胞に全託しましょう。そうすれば、「私を信じてくれたか!!」と、細胞は喜んで働いてくれるでしょう。

### ○崩れようのない神の完全性

神の完全性は崩れようがないのです。あなたの自我の想念でどんなに崩そうと思っても、神の完全を崩すことはできないのです。だから何も心配せず、信じて任せることです。委ねることです。良からぬ想いが湧いてきたら、口を開けて、肩の力を抜いて、空中に思いを放散させてください。そうすれば、良からぬ想いは空中に消散してゆきます。想いを丸くしてください。丸くすれば引っかかりが無くなります。そうすれば、悪い想いは消えてゆきます。さあ、口を開け、肩の力を抜き、「ああ、良からぬ想いが消えてゆ

く！ 消えてゆく！ 消えてゆく！」と思ってください。

### ○汚れた想いを解き放す

あなたは今日まで、どれほど汚れた想いを持ってきたことでしょうか。それが身体の生命意識を歪め、病気にしてしまったのです。さあ、汚れた想いを放散させましょう。目を閉じ、口を開け、肩の力を抜き、何も考えず、意識をポーっとさせることです。意識をポーっとさせれば、想いが内に向くので、天につながります。そうすると光が入ってきます。気持ち良くなります。心が安らぎます。そうすれば、生命力が活発に働き出します。細胞が目覚め、元気になります。意識をポーっとさせながら、細胞が元気になる様をイメージしましょう。間違いなく細胞は元気になります。

○幻ほどよく騒ぐ！

実在しない幻ほど、うるさく騒ぎ立てるものです。うるさく騒ぎ立てれば立てるほど、注目してもらえからずです。病気も同じなのです。大したこともないのに、注目してもらうために、騒ぎ立てるのです。そんな騒ぎに惑わされてはなりません。大したことがないのでから……。もし騒ぎ立てたら、こう思ってください。「ああ、幻が騒ぎ立っている！ 騒ぎ立っている！」と……。どんなに騒いでも放っておくことです。そうすればエネルギーを与えないので、幻である病気は消えてゆくのです。幻はエネルギーが欲しいのです。だから騒ぎ立てて意識させるようにするのです。そんな手に乗ってはなりません。騒ぎ立てたら、エネルギーが欲しいから騒ぎ立っているのだと思って放っておくことです。放っておいたら、病気は消えてゆきます。あまりにもうるさく騒いだら、「ああ騒ぎ立っている幻が、今消えていっている！ 消えていっている！ 消えていっ

ている！」と思うことです。

### ○天の火柱で満たされている

あなたの肉体に宿っている生命力は、天とつながっているのです。だから常に、天からエネルギーが降りているのです。つまり、天の火柱が降りているのです。エネルギーは天の火柱なのです。その天の火柱で満たされている肉体が、病気になることはないのです。あなたの悪的想いが天の火柱を閉ざし、病気になっているだけです。悪想念で天の火柱を閉ざさないでください。そうすれば、あなたは死ぬまで健全健康でいられます。常に「天の火柱が降りている！ 降りている！」と想ってください。そうすれば、どんな病気も寄せ付けません。もし体調に異変が起きたら、天の火柱で異常な細胞を焼いてください。その場合、次のようなイメージを持ってください。「ああ今、肉体細胞が天

の火柱で焼かれている！ 焼かれている！ 焼かれている！」天の火柱とは光のことで  
すから、「ああ今、天の光で焼かれている！ 光で焼かれている！ 光で焼かれている！」  
とイメージすることです。必ず焼きつくされません。

### ○想念は何でも清める

あなたの想念は偉大な消毒薬です。どんな悪しき菌も消毒してしまいます。あなたの  
想念は正義の使者なのです。悪しきものを退治する正義の武者なのです。どんなに悪し  
きものが対抗してきても、打ち負かすことのできる偉大な武者なのです。真っ白な衣装  
で身を包み、弱き者を助けられる天から使わされた正義の使者なのです。その想念が  
一旦通り過ぎれば、そこは清く染められるのです。台風一過後の空気が清まるように、  
あなたの想念が通った後は清まるのです。

どうか想念で肉体細胞を清めてください。じっと光り輝く想念を見てください。光り輝く想念が、肉体細胞を清めてゆく様をイメージしてください。真っ白な想念が細胞一つ一つを清めてゆく様をイメージしてください。事実想念は、神から与えられた清めの道具なのですから・・・。

### ○生命力は何でも癒す

この宇宙は真善美で固められています。偽りも、悪も、醜いものも、不完全なものも、何一つないのです。それは、神の命が宇宙を支配しているからです。その命は、あなたの中で生きて働いているのです。だから、あなたの肉体細胞は健全健康そのものです。たとえあなたの細胞に何か異変が起きていても、命が支配しているあなたの細胞は、どこまでも健全健康なのです。生命が支配している地域に、悪しきものなど侵入できない

のです。侵入してきても、生命にそく座に追い払われるからです。もし細胞に異変が起きたら、こう思ってください。生命という正義の使者が駆け参じ、そく座に異変が解消されると・・・。生命が支配している肉体に、悪しきことなど起こりようがないのです。そこは清いからです。光り輝いているからです。生命力で満たされているからです。光で満たされているからです。あなたの肉体は、光り輝いているのです。光は闇を弾き飛ばすのです。生命は病気を弾き飛ばすのです。生命力は何でも癒すのです。何でも蘇生させるのです。それは正義の使者だからです。真・善・美の塊だからです。だからあなたの肉体は、どこまでも健全健康なのです。

### ○生命力の許容範囲は広い

生命力の凄さは、その許容範囲の広いことで示すことができます。たとえば空気の悪

いとところに住めば、鼻毛が長く伸びるようになります。砂漠に住んでいる人は、まつ毛が長くなります。空気の薄い所に住めば、肺が大きくなります。沢山食べれば胃が大きくなります。肉体を鍛錬すれば、ドンドン強くなります。それだけ肉体には、順応性があるということです。これは肉体の許容範囲の広さを示し、神が創られた完全性の証にもなっているのです。つまり、私たちの肉体で働いている生命力のすごさを物語っているのです。あなたが考えているような、か弱い肉体では無いということです。なのになんかは、自分の肉体をか弱いと思っている。その思いが肉体をか弱いものにしていくのです。体のことを心配するのは、生命力の偉大さが信じられないからです。どうか生命力の偉大さを信じてください。強く生命力が発揮できる環境を与えてあげてください。そのためには、肉体をか弱いと思わないことです。たとえ体調が悪くなくても、「私の肉体は無限の許容量をもっている！ 無限の潜在能力を持っている！ だからどこまで



も健全だ！ 健康だ！」と思うことです。

### ○心を強く持つ

「病は気から！」といわれるように、病気はエネルギーの低下が原因です。そのエネルギーは心ですから、心の弱い人が病気になるのです。では心を強くするにはどうすれば良いでしょう。これまで何度もいつてきたように、原子核を増やすことです。原子核を増やす方法はすでに述べていますが、ここでは心の持ちようによって原子核が増えることについて述べたいと思います。何を思うかは自由です。その自由な思いを使って心を強くしましょう。何か体に異変が起こっても、心を動揺させないことです。異変は悪いことではないからです。心を強くする異変なのです。私たちの肉体は、無限の力を秘めた生命力の働きによって運営されているのですから、少々の異変は放っておいたら

いのです。そんな異変に心を動揺させないことです。「一晩寝たら元気になるんだ！」  
と思うことです。深刻に思うから病気が重くなるのです。「この異変は、自分の心を強  
くするための現象だ！」と思うことです。そのように思えば、異変は消えてゆきます。

### ○良いイメージを持つ

眠りに就く前に、次のようなイメージを持ってください。「私の肉体細胞は、生命で  
満たされ光り輝いている、身体全体が光り輝いている」と……。このイメージを持って  
眠りに就けば、翌朝、爽快な目覚めが期待できます。イメージは創造力の源です。イメ  
ージほど、モノの創造に力を与えることはないのです。イメージそく創造力と思つたら  
いいでしょう。ということは、常に良いイメージを持ち続けることです。そうすれば、  
病気になることは絶対ありません。

「ああ私は今、光に満たされている！ 光に満たされている！ 光に満たされている！ ああ私は今、光のドームの中にいる！ 光のドームの中にいる！ 光のドームの中にいる！」と常に、光で満たされているイメージを持ち続けてください。どうか、光の中に自分を入れてください。光のドームの中に自分を投げ入れてください。

### ○思い込ませる

自分の肉体の完全性を信じてください。なぜ完全なのか？ それは、神が完全だからです。完全な神が創られた肉体が、どうして不完全でしょうか？ もし不完全なら、この宇宙はすでに存在していないでしょう。今宇宙が存在しているということは、神が完全である証なのです。ということは、自分の肉体も完全であるということです。だから肉体のことを心配せず、堂々と使ったらいいのです。

この世に病気が絶えないのは、神の作られた肉体を人間の想念でか弱いものにしていくからです。私たちの想念は怖ろしいもので、思い込めばそれが実際に現象として現れるのです。どんなモノも思い込みで作り上げてしまうのです。ということは、良いモノも思い込みで作り上げられるということです。この思い込みの力を使わない手はありません。どうか「神は完全性である！」という思い込みを、自分の中に作り上げてください。神は完全であるから、この宇宙に完全なものしかあり得ない。だから「私の肉体は完全である！ 完全である！ 完全である！」と思いつまわせることです。

### ○ 負荷をかければかけるほど漲る生命力

生命力は、宇宙を創造するくらいに偉大な力を持っています。その力には限界がありません。だから負荷をかければかけるほど、偉大な力を発揮するのです。私達の中で働

いている生命力は、それほどすごい力を秘めているのです。しかし残念なことに私たちは、その生命力を使い切っていないのです。それは肉体だけを見て、中で働いている生命力を見ていないからです。

偉大な生命力を引き出すには、意識して負荷をかける必要があります。何でもそうですが、使わなければどんな力も錆びついてしまうのです。物質には耐用年数とか、賞味期限とかがありますが、生命力には耐用年数も賞味期限もないのです。生命力は、使えば使うほど目を覚めし偉大な力を発揮するのです。二日酔いを覚ますために、迎え酒を飲む人がいますが、これは理にかなっているのです。ホメオパシーという治療法も、この仕組みを利用した治療法です。それほど、生命力は偉大な力を秘めているのです。ただしこの仕組みを利用するためには、信じる強い気持ちが必要です。つまり、生命力を信じる強い気持ちが必要なのです。信じる人は効果てきめんです。でも、信じない人

は逆効果になる場合があるので要注意です。

負荷をかける具体的方法は、弱気で使っていた肉体を強気で使うことです。たとえば、何でも食べることです。何でも飲むことです。何でもやることです。わざわざ負荷をかけ肉体を使うことです。負荷をかければ使うほど、肉体の働きは強くなります。神はそんなか弱い肉体などを作ってはいないのです。弱気になった途端、肉体の働きは弱まってしまうのです。強い気持ちで肉体を使うことです。ただし、いっぺんに負荷をかけてはなりません。少しずつ、負荷をかけることです。

宇宙に遍満している原子は、常に進化を求めて様々な体験をしています。この進化の歩みは、負荷をかければかけるほどスピードアップするようになっていくのです。ということ、肉体を形作っている原子一個一個の進化も、負荷をかければかけるほどスピードアップするということです。なのに私たちは、自分の肉体を甘やかしています。甘

えさせては、進化が遅くなるのです。神の愛が峻厳なのは、できるだけ早く進化させた  
いからです。人情をかけてはならないのは、進化を遅らせてしまうからです。

次のような動機を持って肉体を使ってください。「私は原子を強くするために、肉体  
を厳しく使うのだ！」と……。これは肉体の原子だけでなく、どんな物の原子も同じ考  
えで使うべきです。そのよう動機で物を使えば、物もきつと分かってくれ、良い働きを  
してくれるでしょう。何事も動機が大切です。自分の欲望を満足させるためにやるので  
はなく、「原子を強くするために、進化させるために、負荷をかけてやるのだ！」と思  
いやれば、原子は喜んで応えてくれるでしょう。勿論、これも中庸を考えながらするこ  
とです。

## ○気を使わないようにする

良いことを意識すれば、良いことを受け継ぎます。悪いことを意識すれば、悪いことを受け継ぎます。この法則を心に銘記してください。具体的には、

・病気を考えないようにするという意味です。

・必要以上に食べ物に気を使う必要が無いという意味です。（中庸を守れば良い）

・必要以上に肉体に気を使う必要が無いという意味です。（中庸を守れば良い）

気を使うのは、病気になりやしないかと心配するからです。それでは、病気を掴んでいるようなものですから、かえって病気になってしまうのです。病気のことを色々考えるのは、生命力を信じていないからです。信じないから、自分の力で生きようとするのは、自分で生きようとすれば、どうしても力んでしまいます。力んで生きる限り、生命力は働いてくれません。生命はこう言うでしょう。「そんなに私が信じられないなら、



勝手にしてください！」と・・・生命は気を悪くしてしまうかもしれませんよ！

あなたは神の子です。神の子ですから、神の想念を持っているのです。その想念を使えば、何でも成し遂げることができなのです。ポジティブな想念を持つてください。ポジティブな想念の代表は、神・生命・光・愛などの想いです。この想いを、時間あるごとに自分の意識に打ち込んでください。つまり、「吾生命なり！」「吾神なり！」と、瞑想することです。自分で生きようとしないうことです。自分で生きようとすれば、どうしても力んでしまいます。それでは、生命力が完全に働いてくれません。生命力に任せましょう。生命力に委ねましょう。所詮、あなたが生きることなどできないのですから・・・。

良いのです。生命に任せてしまえば良いのです。こんな楽な生き方はありません。

## ○生命力に感謝する

肉体に宿って働いている生命力は、宇宙をも創造できるくらいの偉大な力を持っています。私達はその偉大な生命力を悪想念によって弱め、病気にしているのです。悪想念を介入させなければ、肉体は健全健康な働きをしてくれるのです。どうかポジティブな想念を持ってください。たとえ痛みや苦しみがやってきても、「この痛み苦しみは良くなっていく印だ！」という良い想念を持てば、今まで敵だった想念が生命力の見方になるわけですから、病気は目に見えて良くなるのです。よく考えてみてください。あなたの肉体を支配している生命力は、宇宙をも創るくらいの偉大な力を持っているのですよ。しかし、その偉大な生命力を弱めるくらいの力を持っているのが、あなたの想念なのです。今までその想念を、病気の方に使っていたのです。つまり生命の敵に回っていたのです。良い想念を持てば生命力の味方になるわけですから、病気は消えて無くなるので

す。どうか「この痛みは良くなっている印だ！　ありがたいことだ！　ありがたいことだ！」と思ってください。

### ○病気に感謝する

神は完全です。神が完全であるということは、この宇宙に退化や退歩がないという意味なのです。あるのは、進化や進歩のみです。私たちがどんなに悪を犯しても、みな進化や進歩につながっているのです。病気は悪のように見えますが、病苦があるから間違いに気付き成長できるのです。だから病気は有り難いことなのです。

なぜ病気になったのか、深く考えてみてください。必ず、病気になった原因が見えてくるでしょう。そのとき、「病気さんありがとう！」と病気に感謝できるでしょう。そのように感謝が持てれば、病気は消えてゆきます。それはもう気付かせる必要がなくな

ったからです。必要のない人に、どうして苦しみを与えるでしょうか。感謝できるのは、自分の過ちに気づいたからです。どうか、病気の意味を知ってください。意味を知れば、「病気さんありがとう！」と感謝できるでしょう。

繰り返し言います。病気に感謝しましょう。身体が痛んだら、想念が病んでいるシグナルだと思い、「病気さん教えてくれてありがとう！」と感謝しましょう。誰もが、無意識のうちに悪いことを思っているのです。でもそのことに、なかなか気付かないのです。身体の痛みは、そのことを教えてくれているのです。気付くことが大切です。気付けば思いを変えることができます。思いを変えれば、病気は間違いなく治ります。ぜひ、痛みや苦しみを悪と思わず、自分を成長させてくれる味方だと思い、病気に感謝してください。

### 3、真理による治療法

なぜ真理を深めると精神的にも肉体的にも変化が生じてくるかといいますと、自覚の境界線に近づいてくるからです。自覚の境界線に近づいてくると、自然法則外に出なくとも、意識的に微妙な変化が生じ、肉体的変化が生じてくるのです。つまり、言葉による治療法と同じような準覚醒状態になるのです。ですから真理による治療法では、クドイほど同じ言葉を使ってあなたの心に訴えかけます。そのことを冒頭に述べておきます。

その前にまず、三つの絶対的信念を確立させてください。この信念の確立がなされたら不安が解消されるので、気持ちはずーっと楽になります。無知ほど罪なことはありません。人類の不幸は、すべて無知なるがゆえです。どうかこれまでに人類が作り上げた誤った概念を捨て、無知を解消させてください。そうすれば、あなたの足下に希望の陽射しが差してくるでしょう。

## (1) 真理の重要性を知る

三つの絶対的信念を確立させるその一つ目は、この宇宙に貫かれている崩れようのない真理を心から信じることです。真理とは、恒常法のことです。つまり、宇宙の法則のことです。分かりやすく言えば、神のことです。神を知れば、自分が解ります。自分が解れば、自由な生き方ができるようになります。「真理は汝を自由ならしめん！」という言葉がありますが、本当の自分は自由奔放な神なのです。生命なのです。エネルギーなのです。光なのです。だから本当の自分を知れば、いかなるものにも縛られることはなくなりません。そうなれば、病気から開放されます。ですから、今病で苦しんでいるからといって、決して悲観的にならないでください。いや、どんな健康な人よりも自分は幸せだと思ってください。なぜなら、病気が真理に目覚めさせてくれたからです。どうか本当の自分を知ってください。神なる自分を知ってください。生命なる自分を知って

ください。そうすれば、もう病気になることはありませんし、たとえなっても深刻になることはありません。とはいっても、真理を頭で知っただけでは、知っただけの恩恵しか受けられません。心の底で理解する必要があるのです。真理が世の人々に浸透しないのは、知識で終わり変化の起きるところまでゆかないからです。でもやれば間違いない、やらなかった人より幸せになります。なぜなら、宇宙の法則を犯さなくなるからです。これが真理を知った人と知らない人との大きな違いです。悪い原因を作らなければ、悪い結果はやってきません。ですから、それだけ幸せな人生が送れるわけです。この際、真理を知ってください。そして実践してください。ここでは、真理についてできるだけ易しく述べたいと思います。あなたは、真理を知り真理を信じることによって、病気とは縁遠い人になるでしょう。

## (2) 本当の自分を知る

絶対的信念を確立させるその二つ目は、自分が生命であるということを心から信じることです。あなたの本性は間違いなく、生命です。生命が思い、考え、言葉を発し、行動をしているのです。生命がなければ、あなた是指一本動かすことが出来ないのです。いや、一時だって生きていられないでしょう。それよりもなによりも、自分が誰の誰べエであることさえ思えないでしょう。自分が誰べエであると思えること自体が、生命である証なのです。なぜなら、今も述べたように、生命しか思えないからです。考えられないからです。話せないからです。行動できないからです。たとえあなたが意固地を張って、自分のことを「人間だ！ 肉体だ！ 個人だ！」と言おうとも、あなたが生命である事実を覆すことはできないのです。これは、太陽が東から上がるくらい確かなことなのです。この事実を信じてください。



### (3) 病気がないことを知る

絶対的の信念を確立させる三つ目は、この宇宙には病気など無いということを中心から信じていることです。そうです。この世に病気などありません。なぜなら、病気は不完全なものだからです。神の創られた完全な世界に、そんな不完全な病気などあるわけがないのです。もしあるなら、神は完全でなくなってしまう。その証拠に、自然界には病気はありません。病気は、人間界にのみある珍事なのです。では、なぜ人間界にのみ病気はあるのでしょうか。それは、人間には自由意思があるからです。もし人間に自由意思がなかったら、自然界のように病気はなかったでしょうが、神を客観的に認知するといふ使命も果せなかつたでしょう。人間の尊厳は、自由意思を持って神を認知するところにあるのです。しかし残念なことに人間は、その自由意思を悪用し、自ら苦しい病気を作ってしまったのです。

医者も一般人も、肉体は病気になるものだと思っています。でも、肉体が病気になるとはありません。肉体は影ですから、影が病気になることはないのです。想念(光)が病むから、肉体(影)が病むのです。だから私は、病気は「想念病」だということです。病気で苦しんでいる人は、まずこのことを知ってください。そして、肉体が病んでいるという誤解を解いてください。肉体が病んでいると思えば、どうしても心配してしまいます。その心配の思いが、病気を重くしてしまうのです。自分の想念が病気になっていると思えば、想念を正せば良いわけですから、そう心配しなすみすみます。これは、気持ちが悪くなる大切な意識の転換です。どうか、病気の無いことを知ってください。ではこれより、真理の言葉をもってあなたの心に訴えかけてゆくことにしましょう。

## ○悪想念を持たないようにする

完全な生命によって作られ、完全な生命によって生かされ、完全な生命によって働かされている肉体が、病気になることは絶対ありません。病気になるのは、今も述べたように、肉体に自分の悪想念を介入させるからです。肉体は、生命の乗り物です。肉体の中で、完全な生命が生きて働いているのです。その完全な生命に肉体を任せることです。決して、不安・心配・恐怖・怒りなどの悪想念で肉体を痛めつけないことです。たとえ悪的想念を持ったにしても、その時間をできるだけ少なくしてください。悪想念を持つのではなく、良い想念を持つようにしましょう。すなわち、建設的な思い、積極的な思い、前向きな思い、希望溢れる思い、ポジティブな思いを持つこと、良い想念を持つことです。良い想念の一番は、生命を想うことです。神を想うことです。光を想うことです。愛を想うことです。本当の自分を想うことです。良い想いを持っているときは、同

時に悪いことは想えませんが、病気にもならないし、事件や事故にも遭いません。これは原因と結果の法則によるものですから間違いありません。また原子核(魂)が増えま  
すから、環境も良くなります。これは一挙両得なのです。

### ○自我の想念(サタン)に負けないようにする

ネガティブな想念は自我です。つまり、サタンなのです。誰も知らない間にサタンにやられているのです。霊障とは、このことをいっているのです。はっきりいって病気は、すべて霊障なのです。自分の悪想念に周りの悪想念が同調し、病気を引き起こしているのです。自分の心の中にネガティブな思いが潜んでいないか、常に注意してください。といっても、このネガティブな思いは気づかないように忍び寄ってきますので、見破るのが大変です。これを見破るには、サタンの特徴を知っておく必要があります。

ではサタンは、どのような特徴を持っているのか、具体的に述べることにしましょう。

- ・ 自我は、身体を動かすことが大の苦手です。
- ・ 自我は、厳しいことをするのが嫌いです。
- ・ 自我は、集中することが嫌いです。
- ・ 自我は、我慢することが嫌いです。
- ・ 自我は、繰り返すことが嫌いです。
- ・ 自我は、消極的です。後ろ向きです。ウジウジしています。臆病者です。
- ・ 自我は、協調性がありません。
- ・ 自我は、反対したがりです。否定したがりです。
- ・ 自我は、判断力が鈍いです。見分けることが苦手なのです。
- ・ 自我は、明るいところが嫌いです。肉体は闇ですから光を嫌うのです。

・自我は、清いものが嫌いです。

・自我は、五官を喜ばしたがりません。

・自我は、楽なことが好きです。怠け者なのです。

・自我は、感情的です。すぐに怒ります。憎みます。恨みます。妬みます。誹ります。嫉妬します。

・自我は、欲望的です。肉欲・金銭欲・物欲・地位名誉権勢欲など、あらゆる欲望が強いのです。

・自我は、心配症です。悪く受け取ります。クヨクヨします。悔やみます。自分を虐めます。

・自我は、嘘をつきます。騙します。陥れます。人の苦しみを見て喜びを感じます。

・自我は、甘えん坊です。すぐに人に頼ろうとします。人に憐れみを乞います。人に心配

されたいのです。親のすねをかじって生活している人は、みな自我にやられているのです。

・自我は、「真善美」を嫌います。すなわち、「真・誠・信」「善・正義・道理・法則」「美しさ・清さ・浄さ」を嫌うのです。

・自我は、真理の話を嫌います。

・自我は、わざわざ物事を難しくします。簡素簡潔なことが嫌いなのです。

・自我は、必要以上に時間を掛けたがりです。整理整頓が苦手です。当然、不衛生な環境になるでしょう。

・自我は、ひねくれた考えを持ちます。素直でないのです。

・自我は、自己顕示欲が強いのです。自分を良く見せたいのです。人に認めてもらいたいのです。自分の成果を誇示したいのです。ですから、もったいぶります。

・自我は、人を責めたがりです。人を攻撃するのが好きなのです。気がすむまで相手を許しません。

・自我は、自分の弱みや欠点を指摘されると腹を立てます。

・自我は、争い事が好きです。すぐに騒ぎ立てます。小さな問題も、わざわざ大きくします。

書き切れないのでこのくらいにしておきますが、自我は全てにおいて偏った性質を持っているのです。だから、躁と鬱が交互にやってくる特徴を見せるのです。このような性質が自分の中にないか、一度確かめてください。

自我の一番苦手なことは、身体を動かすことです。私が運動を勧めるのは、自我の弱みをつくためなのです。その弱みをつくることができたならば、他の弱みも総崩れになってしまうでしょう。なぜ彼らは身体を動かすことが苦手かといいますと、運動すると原



子核が増えるからです。ですから、サタンの弱みを突きたかったら運動を始めてください。はじめは軽い運動から、徐々に強い運動に、最後はフルマラソンをやるくらいまで挑戦してみてください。運動をし、汗をかいた後のあの爽やかさ、清々しさ、みなさんも体験があると思います。汗をかくとなぜ爽やかになるかといいますと、老廃物が汗と共に体外に出るからです。余分な脂肪も燃やします。身体から老廃物が出ると波動が高くなるので、身体が軽くなるのです。さらに運動が良いのは、手足の筋肉が多く酸素を取り込むため、体内エネルギーが高くなるからです。酸素は宇宙エネルギーの一種ですから、酸素を多く取り込めばエネルギーが高まるのです。エネルギーが高まるということは、光が多くなるということですから、光に弱いサタンは退散するしかないのです。運動選手に心身共に健康な人が多いのは、エネルギーを多く取り入れ、サタンを入れる隙間を与えないからです。このように身体を多く動かせば、精神的にも肉体的にも健

康になるのです。今サタンで苦しんでいる人は、まず身体を動かすことから始めてください。運動が生活の一部になれば、サタンと無縁な人になるでしょう。最後に、真理の探求をお勧めします。サタンにやられやすい人は、私の本を読んでください。光のメロデー集を見てください。勉強会の動画を見てください。特に勉強会の動画は効果がありません。自我は、本当の自分を知られることが怖ろしいのです。だから、真理の話をお聞きに行こうとすると邪魔をします。瞑想したくなくなるのも、サタンの仕業です。サタンは弱い自分を様々な方法で誘惑し、真理を求めさせないようにするのです。繰り返します。サタンとは自我のことです。弱い自分のことです。サタンにやられるのは、自分が弱いからです。もし、サタンにやられていることに気づいたら、「見破ったぞ！自我よ、去れ！ ネガティブな想いよ、出てゆけ！ サタンよ、退け！」と心の中で叫んでください。この方法は、特に精神を病んでいる人に効果があります。できるなら、

「見破る！」という字を書いて、見える所に貼っておいてください。そうすれば、サタンにやられずにすむでしょう。どうか弱い自分に負けない、強い精神力の持ち主になってください。

### ○何かに打ち込む

昔から「忙人に病人なし！」といわれてきましたが、それは忙しければネガティブな想念を持つ暇がないからです。暇があれば色々とネガティブな事を考えますが、何かに打ち込んでいる時は悪いことを考えないので、病気を作らないのです。スポーツでも、旅行でも、何でも良いですから、何かに打ち込んでください。考える暇を与えない、何か趣味を持ってください。それも、できるだけ集中できる趣味を持ってください。その趣味が、真理を求めることであれば最高です。さらに、神(生命)を想う瞑想であれば超最高です。

## ○良い話題の提供をし合う

今日からどんな悪しき話題も、良い話題に変えてしましましょう。どんな悪い話題も良く受け取れば、良い話題に変えられるのです。これは考え方ひとつなのです。一例として、家族の誰かが怪我をしたとしましょう。「これは業が消えている状態だから良いことだ！」とポジティブに捉えれば、どんな悪しき話題も良い話題に変えられるのです。私たちは、自由意思によって何でも思えるのです。その自由な思いを、どうか良いことに使ってください。想念の力を信じてください。正しい想念を持てば、絶対悪いことは起きません。それは誰かがするものではありません。自分がするのです。

## ○人の言葉にも惑わされないようにする

医者が寿命を決めるものではありません。自分の想念が寿命を決めるのです。人に何を

言われようと、決して動じないことです。自分の中に偉大な生命が存在するのですから、その力を信じることです。決して、自我人間の言葉に惑わされなくてください。迷っているから自我人間として生きているのですから、そんな自我人間の言うことに振り回されなくてください。神が創られた自分の肉体を信じてください。肉体を支配している生命力を信じてください。信じれば、外側の言葉に惑わされなくてすみます。その生命力は、自分の想念の使い方次第で偉大な力を発揮するのですから・・・。どうか人の言葉を信じるより、自分の中で働いている偉大な生命力を信じてください。なおかつ自分の想念の力を信じ、その想念を良く使うようにしてください。

### ○意識しないようにする

以前私は、後頭部に傷を負ったことがありました。治りかけてカサブタができたので

すが、どうもそのカサブタが気になるのです。それ以来、カサブタが無くならないのです。一種の皮膚病になってしまったようです。真理をかじり始めたころ「意識が物を作る」と書いてある本を見て、ハッと気づいたのです。もしかしたら、気にしているから無くならないのではないかと……。そこで私は、気にしないよう心がけたのです。気にしなくなつて三週間ほどたった頃フト頭に手をやると、何とカサブタが無くなつていではありませんか。当時、私の母も首筋に何かできており、毎日軟膏を塗っていました。そこで私の体験を母に話し、意識しないよう進言したのです。何週間かたったある日、フト母の首筋を見ると、きれいに治つていゝのです。母は大感激でした。「悪に抗するなかれ！」とは、「悪い想念を与えるな！ 悪い想念で相手にするな！」という意味なのです。

こんな話もあります。ある人が医者から胃ガンの宣告を受けたのです。当人が悩んだ

のはいうまでもありません。でも三週間後、それが誤りだったことが分かったのです。どうも、他人のレントゲン写真と取り違えていたらしいのです。告げられた本人はホッとしましたが、どうも胃の具合が良くないのです。そこで改めてレントゲン検査をしたところ、何と、以前レントゲン写真に無かった病巣が写っているではありませんか。それも、見せられた写真と同じ場所にできているのです。たった三週間で、心配の想念が病気を作ってしまったというわけです。きっかけとなったのは誤報ですが、病気を作ったのは自分の想念です。肉体は生きていないのですから、肉体が勝手に悪くなるはずはないのです。三週間悩んだ自分の想念が病を作ったのです。ガン検診は、ガンを恐れている人達のことです。だからガン検診を受けている人ほど、ガンになる確率が高いのです。意識しなければなることは無いのですから、意識しないことです。「寝ている子を起さないことです。」

この宇宙に意識は、神の意識しかありません。その同じ神の意識を私達は持っているのです。想念意識、それがそうです。同じ神の意識だから、意識すれば何でも作ってしまうのです。意識の凄さを、想念の凄さを、再認識してください。

### ○要らぬ情報を入れないようにする

私達が苦しんでいるのは、苦しいことを自分の意識の中に入れるからです。これは丁度、おいしいそうな食べ物を勧められて食べ、腹を壊すようなものです。食べなければ腹を壊すことはないのですから、食べないことです。病気の情報・薬の情報・食療法の情報・ガン検査の情報・紫外線情報・花粉情報など、マスコミは良かれと思って報じているのですが、これは想念の恐ろしさを知らない無知な者のすることです。だからといって、マスコミを責めるわけにはゆきません。毒を食べて腹を壊したのは、自分な



のですからね……。できるだけ要らぬ情報は、自分の意識の中に入れてはいけないことです。外側の自我人間の情報は、みな幻なのですから……。といっても、肉体を持っている限り情報はある程度必要ですから、全部無視しなさいとは言いません。でも、できるだけ少なくすることです。そうすれば、心があまり乱れないですみます。

### ○何事も良く受け取る

どんなことも良く受け止めれば、心が暗くならずにすみます。神の完全性、生命の完全が信じられれば、それができます。たとえば、何か自分に不都合なことが起きたとしましょう。でもこれは、「自分を成長させてくれる不都合だと良く受け取れば、心を暗くしないですみますので、苦しまないですむのです。」否定はエネルギーを落とし、肯定はエネルギーを高めます。どうか、肯定的な想念を持つようにしてください。何ごと

も良く受け取ることです。それは、自分の自由意思でできるのです。幸せは、自分が何をどう受け取るかで決まるのです。幸せの売買人は、自分の想いなのです。それはすべて、自分の考え方次第です。だから、不幸を人のせいにしてはならないのです。これは病気についても言えることなのです。一番良いのは、病気を味方に付けるポジティブな考え方です。つまり、病気を悪と思わず善と思うことです。病気は、過ちを気付かさてくれます。人生の目的を発見させてくれます。つまり、自分を成長させてくれるのです。ですから、「病気さんありがとう！」と感謝することです。病気を味方につけたら、病気は消えてなくなります。恐れて敵対するから、病気が暴れるのです。私たちに病気がなかったら、過ちに気づかずますます深い罪を作ってしまうでしょう。そうなるを取り返しがつきません。だから気付かせてくれる病気は、ありがたいことなのです。

## ○宇宙の法則を守る

この宇宙には、きっちりとした法則が存在します。その法則は、宇宙を秩序立てている中庸という法則です。その法則を守って生きれば、人間界に病気などないのです。法則を守るか、法則を犯すか、それは、自由意思を持った人間に任せられているのです。賢い者は、法則を守り幸せな人生を送っています。愚かな者は法則を犯し、苦しい人生を送っています。誰のせいでもありません。みな自己責任です。でもそのことを知らない無知な者は、自分の自由意思で苦しみを作り、それを人のせいにしたり、何かのせいにしたりして腹を立てているのです。そんな愚かな人生から足を洗いましょう。そのためには、宇宙の法則をよく知り守ることです。宇宙の法則は、私たちの想念に正直に従ってくれます。良い想念を持てば幸せが・・・悪い想念を持てば苦しみが・・・どうか、自分の想念を悪用し、病気を作らないでください。さあ、想念を良いことに使いま

しよう！

### ○業の上塗りをしない

事故・災難・病気などの苦しみは、過去自分が放った悪想念の結果なのです。でも、そう悲観することはありません。なぜなら、その痛み苦しみは悪業の消えている状態だからです。業は放って置いたら消えてゆくのです。なぜなら、業自体は生きていないからです。業を生かしているのは、人の想念なのです。その想念を絶てば、業は力を失い消えてゆくのです。業の消滅を、このように考えてください。

たとえば、今自分の倉庫(心)に悪い在庫品(悪業)が100個あったとしましょう。今日10の痛み苦しみがやってきたら、悪い在庫品が10個はけたと思ってください。たとえ一度に50個の痛み苦しみがやってきても、それだけ多くの在庫品がはけたのですから良い

ことなのです。ただし注意しなければならないのは、新たな在庫品を抱えないようにすることです。多くの人が痛み苦しみから抜け出せないのは、新たな悪業の上塗りをするからです。

たしかに痛み苦しみがくれば、どうしても悪業の上塗りをしてしまうものです。でもそれに打ち勝たねば、いつまでも悪業の輪廻から抜け出せないのです。では、打ち勝つにはどうすればいいのでしょうか？

「この痛みや苦しみは悪業が消えている姿だから有り難いことだ！」と思うことです。つまり、痛みや苦しみがやってくる度に「今一つ悪業が消えて行った！ ああまた一つ悪業が消えて行った！ 有難うございます！ 有難うございます！」と想うことです。そのように対処すれば、痛み苦しみは半減します。

事故・災難・病気などの苦しみは、過去の過ちによって起きているのでから、過ちに

気づき、生き方を正したら何もしなくても悪業は消えてゆくのです。悪業の上塗りさえしなければ……。この悪業の上塗りさえしなければ、ということがとても大切なことなのです。悪業の上塗りをしないためには、今の今を正しく生きることです。今の今を正しく生きるとは、良いことを想うことです。その良い想いの一番が、神を想うことなのです。

### ○真理を探求する

痴呆症になりたくなかったら、真理の探求心の旺盛な人になってください。その人はもう、痴呆症とは無縁な人になるでしょう。なぜなら、想念を神の方に向けるようになるからです。想念を神の方に向けるようになったら、エネルギーが強まるので痴呆症とは無縁な人になるのです。人生の目的は、本当の自分を知ることです。つまり、真理を探求することです。もし死ぬ覚悟で真理を探求しはじめたら、どんな病気も快方に向か

うでしよう。ただし、「病気を治したいから真理を探求する！」という不純な動機ではダメです。「本当の自分を知りたいから真理を探求する！」という純粋な動機でなくてはなりません。それができたら、間違いなく病気から生還できます。生命(神)に顔を向けるようになった我が子を、生命(神)は苦しめると思いますか？ 向けないから向けさせるために、病気を与えるのです。さあ、純粋な動機を持って真理を探求しましょう。

### ○病気のことば考えない

世の中には病気を恐れ、必要以上に食べ物に気を使ったり、空気や水や着る物に神経質になる人がいますが、余り神経質になると返って病気になってしまうものです。なぜなら、病気を掴んでいるからです。病気を掴んでいて、どうして健康になれましょうか。不摂生な生き方も良くありませんが、余り神経質になっても良くないのです。本当は、

病気のこととは考えない方が良いのです。意識すれば実現するのが、この宇宙の仕組みだからです。良いことは大いに考えてください。でも悪いことは考えないことです。つまり、病気のこと、不幸なこと、悪いこと、は考えないことです。そんな悪いものなど本当は無いのですから・・・。病気のこととは考えないようにしてください。病気を掴まないうようにしてください。悪いことは一切考えないでください。それが偉大な想念を持たされた賢い人の生き方です。

### ○想念のコントロール

私たちが持っている唯一の財産は、想念です。この財産は、どんな宝物よりも価値があるのです。なぜなら、想念によって何でも得られるからです。お金も財産も健康さえも・・・。だから、想念のコントロールが大切になるのです。私たちは、想念のコントロ



ールを学ぶために生まれてきたといっても過言ではないのです。想念は自由です。誰にも邪魔されず、いつでも自由に、どのようになでも思えます。それだけに、どうしても悪用してしまうのです。でもそれは、想念の恐ろしさを知らないからです。どうか、正しく想念を使ってください。そうすれば、病気にならずにすみます。

ネガティブな想いは光を閉ざし、ポジティブな想いは光を呼び込むのです。光はエネルギーですから、光を閉ざせばエネルギーが低下し、光を呼び込めばエネルギーが高まるのです。エネルギーを低めなくなったら、できるだけネガティブなことは考えないことです。どうしてもネガティブな思いが消せないなら、神(生命)を思い続け、ネガティブな想いの入る隙を与えないことです。ベッドで寝ている人は何もすることがないので、やる気になればできるはずで、真剣にやれば、間違いないでエネルギーは高まります。それでもネガティブな思いから抜け出せない人は、睡眠を多くとることです。

なぜ、眠ると元気になるかといえば、眠っている間は、ネガティブな想いから解放されるからです。ネガティブな想いから解放されれば光が入ってきますので、エネルギーが高まり元気になるのです。といっても、睡眠薬を使って眠ることは良くありません。音楽を聴くとか、外の自然を見るとか、青空を見るとかすれば、自然と眠けに誘われますから、その方法をおすすめします。それより一番いいのは、生命(神)を想うことです。私たちの本性は生命(神)ですから、生命を想えば心が安らぎ眠くなるのです。

### ○気を充実させる

病は「気」からといわれるように、気(光・エネルギー)が不足することによって病気になるのです。気を不足させている原因は、物質に偏らせている想念です。想念が陰陽の法則を犯しているため病気になるのです。それは、エネルギーの循環がうまく行われ

ていない状態なのです。陰とは物質のことです。陽とはエネルギー(生命)のことです。想念が陰に偏るとエネルギーが低下するため、どうしても病気になるのです。物質文明が栄えると病気が増えるのはそのためです。物質は陰性で影(闇)なのです。影には、一寸のエネルギーも無いのです。物質ばかりを意識しては、エネルギーは高まりません。どうか生命を意識してください。生命を意識していれば気が充実します。そうすれば、病気になることはありません。

### ○良いエネルギーを使う

エネルギーに、良いエネルギー悪いエネルギーというものはありません。エネルギーを良くするも悪くするも、想念の持ち方次第なのです。エネルギーは、想念の色に素直に沿ってくれるからです。想念の色Ⅱエネルギーの色なのです。そのエネルギーは、想

念の力によって強くも弱くもできるのです。ですから、エネルギーを強めたかったら、良い色の想念を強く発信することです。山彦の原理と同じなのが、想念の原理なのです。良い色の想念とは、ポジティブな想念のことです。中でも生命(神)の想念は、その代表格です。生命(神)を想っているとき、あなたはエネルギー人間になるのです。私たちは生きている限り、エネルギーと関わらないではいられないのです。エネルギーは命の素なのです。

大気中のエネルギーと私たちの健康は、密接な関係にあります。天気の良い日に古傷が痛んだりするのは、大気中のエネルギーが少ないからです。低気圧のときはエネルギーが低く、高気圧のときはエネルギーが高いのです。天気の良いときに晴れ晴れし、天気の悪いときに気分がすぐれないのはそのためです。このようなこともあります。よく森林浴に行く人がいますが、自然の豊かなところは酸素が多いのです。酸素そのものが

エネルギーですから、酸素の多い山に行くと体調が良くなるのです。よく地場の良い所へ行けば病気が治るといわれますが、三角地帯や円錐形地帯など地場の良い所はエネルギーの流れが良いのです。でも、一番エネルギーを高めてくれるのは、人間が生命(神)を想う瞑想です。これに勝るエネルギーの高め方はありません。外側に頼るのは他力です。内側に頼る瞑想は自力です。ぜひ、瞑想によってエネルギーを高めてください。

### ○唯心的な考え方を持つ

人間には右脳と左脳がありますが、唯心的なものの考え方をすると右脳が開発され、エネルギーが強まるのです。反対に、唯物的なものの考え方をすると左脳が開発され、エネルギーが弱まるのです。なぜなら、右脳は宇宙(天)と直結しており、左脳は物質(地)と直結しているからです。天はエネルギーが高く、地はエネルギーが低いのです。

物質を想っている時は、低いエネルギーと接しているわけですから、体内エネルギーは落ちるのです。若い時はそれでも良いでしょうが、年を取り体内エネルギーが落ちてくると、病気という形で現れてくるのです。

物質は実在するものではありません。でもエネルギーは、実在するのです。その実在するエネルギーの事を考えるようにしましょう。その人は、エネルギーが高まるので健康になるのです。しかし物質の事を考えている人は、エネルギーが低くなるのでどうしても不健康になるのです。

### ○リスクは善である

どんなことにも裏と表があるものですが、その裏と表は二つで一つなのです。裏は表であり表は裏なのです。どちらも必要なのです。真実の扉は、表裏一体の中から開かれ

るのです。例えば、病気になったとしましょう。当然その人は、苦しむでしょう。でもその苦しみの中から、必ず何かを発見します。それは、裏を体験することで表を知るからです。ということは、それは悪ではなく善です。よくリスクを負うといいますが、良いことには悪いリスクが、悪いことには良いリスクが伴うのです。それも高ければ高く、低ければ低く……。この世は裏と表が交互にやってくることで、善を知り、完全を知り、成長できるようになっています。この宇宙に一方通行がないというのは、必ず見返りがあり、その見返りが成長の後押しをしてくれるからです。どうか、病気を良いリスクだと思ってください。苦しい病気の中に、間違いない良いリスクが潜んでいるのですから……。

## ○病気は影である

病気は影なのです。影は実際にあるものではありませんから、エネルギー(光)を与えなければ消えてゆくしかたなのです。それは、消極だからです。自分の力で生きていないからです。でも、光は自分の力で生きています。光は能動的なのです。しかも、光は永遠に存在します。その光は、影を動かしている黒子のような存在です。光が弱ければ影が薄くなり、光が強ければ影が濃くなるのは、影は光の操り人形だからです。影が演技しているのではなく、後ろで光が演技しているのです。影自体にはなんの力もないのです。病気はこの影と同じなのです。影だから、自分の力で悪くなることも、良くなることもできないのです。放っておいたら風船が萎むように、病気も萎んでゆくのです。ネガティブな想いを持ってならないのは、影にエネルギーを与えてしまうからです。ネガティブな想いは悪しきエネルギーですから、悪しきエネルギーを与えれば病気は進行す



るのです。だから、決して悪いことは想われないことです。想わなければ悪いエネルギーを与えないわけですから、病気(影)は消えてゆくしかないのです。

社会の闇も同じです。人間は何か問題が起きるとすぐに騒ぎ立てますが、騒げば騒ぐほど闇に力を与え問題を大きくしてしまうのです。闇は実在するものではありませんから、そんなものは放っておいたらいいのです。そうすればエネルギーを与えないわけですから、消えてゆくしかないのです。よく、靖国神社問題で騒ぎ立てますが、騒ぎ立てるから問題が大きくなるのです。騒ぎ立てればエネルギーを与えるわけですから、まず問題が大きくなりこじれるのです。エネルギーを与えなければ自然消滅するのですから、放っておいたらいいのです。靖国神社にお参りしてもお参りしなくても、何の意味もないのです。ただ、いい格好をしたいただけです。問題を起こす方も悪いですが、問題にする方も悪いのです。まさに、子供じみています。大人なら、もう少し賢くなつて

ください。自我はサタンです。肉体人間はサタンです。サタンを相手に事を大きくしないでください。

### ○肉体が幻ならば感覚も幻である

病気は実際に有るものではありません。なぜなら、肉体そのものが実在していないからです。もし肉体が実在するなら、病気も実在することになり、一旦病気になったら永遠に治ることはないでしょう。幸いなことに、肉体は実際に無い影ですから、肉体が亡くなれば、痛みも、苦しみも、消えて無くなるのです。有るように見える、痛い、痒い、寒い、暑い、の感覚は、肉体人間の迷いの産物なのです。「でも、実際に、痛くて、苦しいではありませんか!」といわれるかもしれませんが、それは、意識が受け取るから感じるのです。肉体から意識が出たら、痛みは感じなくなるのです。これは、肉体と意識が

別ものであることの証なのです。痛みや苦しみの感覚は、真理を気付かせる手段になっているのです。

痛みや苦しみは幻の肉体に付属するものであって、実際に有る意識に付属するものではありません。影から生まれたものは影なのです。幻から生まれたものは幻なのです。実在しないものから生まれたものは実在しないのです。すなわち、現象から生まれたものはすべて現象なのです。人間は、その現象に翻弄され苦しんでいるのです。もし幽界と同じように、肉体に感覚がなかったら、誰もが夢幻だと思って真剣に生きようとしなんでしょう。それでは、表現世界で生きる意味がなくなるので、神は人間に感覚器官を与えたのです。痛みや苦しみを通して真実を知るのですから、痛みや苦しみは必要なのです。さあ、目を覚ましましょう。何がホンモノで、何がニセモノか見抜きましょう。もし見抜くことができたなら、もう病気に苦しむことはないでしょう。

## ○病気は覚醒剤のようなもの

五官から生まれた感覚は、実際にあるものではありません。なぜなら、肉体そのものが実際にはないものだからです。でも五官がなければ生きてゆくことができませんから、神は実際にはない肉体感覚と実際にある意識とを結びつけ、この世で無事生きられるようにしたのです。肉体感覚は幻で、本当にあるのは意識です。意識が受け取らなければ、そんな感覚は無いのです。その証に、針麻酔や薬による麻酔で痛みを遮断することができます。意識が受け取るから痛むのです。傷を負っても、意識(魂)が抜けていれば痛みは感じないのです。だから肉体が痛んでいるのではなく、意識が痛んでいるのです。なぜ神は、このような仕組みをお創りになったかといいますと、肉体と意識が別ものと知れば、自分の本性(生命)に目覚めてもらえるからです。

何度もいうように、私たちの本性は生命です。肉体の自分と生命の自分とは別モノな

のです。しかし、多くの人間は、自分のことを肉体だと思っているのです。肉体だと思っ  
ている間は、自分の本性が見抜けないのです。見抜くためには、疑問を持たせなくて  
はならないのです。だから神は、苦しい病気を与え疑問を持たせるようにしたのです。  
その意味では、病気は人間にとって必要不可欠な覚醒剤とっていいでしょう。

### ○なぜ痛みや苦しみが必要か？

神はなぜ、痛みや苦しみを用意されたのでしょうか。それは、次のような理由からで  
す。

1、肉体を粗末に扱うのを避けるため。

もし痛みや苦しみが無かったら、自分の体を粗末に扱ってしまうでしょう。それでは  
肉体維持は適いません。(それでなくても人間は、怪我をしたり、病気をしたり、人殺し

をしたり、自殺をしたり、肉体を粗末にしている)痛いから気を付けるのです。痛いから、身を守ることができなのです。痛みや苦しみは、危険から身を守る警報装置の役割を果たしているのです。

2、現実を現実たらしめるため。

もし痛みや苦しみが無かったら、私達はこの世を夢か幻だと思い、真剣に生きようと思わないでしょう。それでは何一つ学ぶことができません。この世が修業の道場といわれるのは、痛みや苦しみを通して真剣に学べるからです。

3、神に顔を向けさせるため。

人間は真実を知るために生まれてきたにもかかわらず、一向に真実に顔を向けようとしません。だから神は、顔を向けさせるために痛みや苦しみを用意したのです。誰でも耐えられない痛みや苦しみに襲われると、「神様助けて下さい！」と神頼みするように

なるものです。これは人生の思索を始める重要な一步になるのです。

4、反省をさせるため。

痛みや苦しみに襲われると、「なぜ私はこんなに苦しまねばならないのか？ 何かバチでも当たったのか？」と疑問を持つようになります。痛みや苦しみが無かったら、自分が暴走していても気付きません。振り返ってこそ、反省してこそ、どんな走り方をしているか気付くのです。反省は方向転換させる大変意義あることなのです

5、疑問を持たせるため。

4の反省は、結局人生の思索を始めるきっかけになります。人間とは何か？ 人生とは何か？ 人は死んだらどうなるのだろうか？ 等々・・・これは特に、死に直面している人の中に芽生えてきます。疑問は気付きにつながり、気付きは目覚めにつながります。だから痛みや苦しみは、眠っている魂にはどうしても必要なのです。

6、因果の法則を知らしめるため。

善い行いには良い結果が、悪い行いには悪い結果がついてきます。でも痛みや苦しみが伴わなかったら、そのことに気付くことはありません。悲しいことですが、人はこの身で痛みや苦しみを体験しなければ、自分の過ちに気付かないのです。痛みや苦しみは、因果の法則を知らしめる重要な役割を果たしているのです。

7、肉体の執着を解くため。

幼い魂は、肉体を自分だと思いついていて、寿命が来てもなかなか肉体から離れようとしません。でもどんなに執着を持っている魂も、耐え切れない痛みや苦しみに襲われると、肉体から出たいと思うようになります。痛みや苦しみは、肉体の執着を解く重要な役目を果たしているのです。

8、相手をいたわる心を育てるため。



自分が体験した痛みや苦しみは、結局相手をいたわる心を育てます。『自分があれだけ痛かったのだから、相手も同じように痛いはずだ』と……。つまり自分の苦しみを相手の中に見ることができるようになるわけです。特に肉親の痛みや苦しみは、自分のこととして受け止められるだけに、より切実に感じるでしょう。この切実感が魂を大きく成長させるのです。

このように痛みや苦しみは、今の人間にとってなくてはならないものなのです。神は何一つ不要なものはお作りになっていません。だから痛いから苦しいからといって、神を憎んではならないのです。憎むのではなく、なぜこのような苦しみが与えられたのか、自分に問いかけることが大切なのです。

## ○幻の中に現れたものは幻である

幻の中に現れたものは幻です。夢の中に現れたものは夢です。妄想の中に現れたものは妄想です。人間の肉体は、いつか必ず消えてなくなります。消えてなくなるのは、実際にないものだからです。実際にはないということは、肉体は幻であるということです。ならば、幻の肉体に現れた病気は幻ではないでしょうか？ 夢に現れたものが夢であるように、幻の肉体に現れた病気も夢と同じ幻なのです。

肉体は物質です。物質には一寸の力もありません。それは幻だからです。そんな力のない幻が、病気を作ることなどできないのです。病気を作っているのは、実際にある意識です。あなたは意識を持っていますね。その意識が病気を作っているのです。「病」は「氣」からといわれるのは、「氣」そのものが意識だからです。意識は(想念・氣)何でも作り出す偉大な力を持っているのです。その偉大な力を悪用して、人間は病気を作っ

ているのです。この事実をしっかり認識して欲しいと思います。では、どうすれば病気を無くすることができるのでしょうか。それは原因を絶つことです。病気は結果です。想念は原因です。原因を絶つとは、想念を正しく使うということです。想念を正しく使えば、良い原因を作るわけですから、病気などになるわけがないのです。人間はそのことを知らないため、想念を悪く使っては自ら病気を作り苦しんでいるのです。

では、想念をどう正しく使えばいいのでしょうか？ 簡単な事です。想念をネガティブなことに使わないことです。ポジティブに、明るく、朗らかに、何事も良く受け取り、決して悪想念を持たないことです。特に、感情を荒立たせないことが大切です。すなわち、怒らない、憎まない、恨まない、嫉妬しない、妬まない、囚われない、心配しない、恐れぬ、イライラしないことです。もう一つ大切なのは、感染症を恐れぬことです。なぜなら、幻の肉体に現れたウイルスも幻だからです。つまり、ウイルスそのものが幻

であり、結果だからです。ただし、菌の背後に存在する意識は実在します。でもその菌の意識とあなたの意識はつながっているのですから、あなたが悪想念を抱かなかつたら、つまり原因を作らなかつたら、感染症にかかることはないのです。自分が自分を害することはできないからです。この宇宙はうまく出来ているもので、真理を知れば知るほど（理解力が増せば増すほど）苦しみが少なくなっていくようになってきているのです。真理を知った人は悪い原因を作らないわけですから、悪い結果が生まれません。当然です。だから私は、真理を知ってくださいと願うのです。どうか、幻の中に現れたものは、幻であるということを知ってください。つまり、肉体に現れた病気は、幻であるということを知ってください。

## ○痴呆症は必要悪

「痴呆症は必要悪である」というと、そんな馬鹿な！　と思われるかもしれませんが、これは本当の話なのです。神は完全です。その完全なる神が、意味のない痴呆症を与えるわけがないのです。痴呆症には、二つの目的があるのです。

一つは、地球をこれ以上悪想念で汚染させないための目的です。今地球の周りは、悪想念でいっぱいです。それは多くの人が、悪想念の垂れ流しをしているからです。これ以上悪想念の垂れ流しをされたのでは、地球は持ちません。だから神は、垂れ流しにストップを掛けるために、痴呆症を用意したのです。ボケ老人を見てください。何の心配も、何の悩みもない顔をしています。左脳の機能が失われると、悪想念(心配・恐怖・憎しみ・怒りなど)が持てなくなるのです。神は左脳の機能を失わせ、人生の悩みから開放すると同時に、悪想念の垂れ流しを止めようとしているのです。

二つは、真理を知らしめる目的です。私たちは、「本当の自分を知るため」つまり「神を知るため」に生まれてきました。しかし殆どの人は、この世のことに夢中になり、神を知らうとしません。知らうとしないどころか、多くの人が神を否定しています。これでは、この世に生まれた意味がありません。そこで神に顔を向けない唯物的な人たちのために、「痴呆症」という病気を用意したのです。痴呆症という病気は、前述したように左脳の機能が失われる病気です。左脳の機能が失われると自我が弱まるため、これまで頑なに真理を否定していた人が、素直に耳を傾けるようになるのです。頭のおかしい人に真理の話をして無駄ではないか、と思われるかもしれませんがその反対なのです。左脳は物質的なものを重んじる脳です。右脳は精神的なものを重んじる脳です。左脳の働きが鈍くなってくると、今まで抑えられていた右脳の働きが活発化してくるため、真理の受け入れる土壌が整うのです。痴呆症になると、徘徊したり、物を集めたり、物を

隠したりする、おかしい行動を取るようになりますが、これは神を求める右脳の働きによるのです。神探しを彼らは、何かをすることで紛らわせているのです。紛らわせているわけですから、そんな人に真理の食べ物を与えれば、むさぼるように食いつくのです。頭がおかしいと思わず、真理を植え付ける絶好のチャンスだと思って真理の話をしてあげてください。自我は聴いていなくても、魂はしっかりと聴いているのですから……。

このように痴呆症は、真理に顔を向けさせる神の計らいなのです。もしこの計らいがなければ、魂の進化は相当遅れるでしょう。どうかわけの分からない人だと思わず、真理の話をしてあげてください。うつろな瞳の向こうで、魂はしっかりと聴いているのですから……。

## ○懺悔（反省）

心に曇りを付けていると、宇宙エネルギーを閉ざしてしまいます。たとえ入ってきて、完全燃焼させることができません。エネルギーを完全燃焼させるためには、心の曇りを取り除く反省が必要なのです。これまでの人生の過ちを反省し、二度と過ちを犯さないと堅く心に誓えば、心の曇りは取り除かれ光（エネルギー）が入ってきます。心から反省すると身体が軽くなったり気持が晴れ晴れするのは、光に満たされたためです。反省は悪い原因を消す一番の方法なのです。ただし注意しなければならぬのは、反省を後に引きづらないようにすることです。つまり、一度心から反省したらスパッと忘れることです。また反省のための反省であってもなりません。また、業を消したいから反省するという反省であってもなりません。反省は、心から悔い改めるためなのです。「私はこういう悪いことをしました。御免なさい！ もう二度とこのような過ちを犯し



ません。」と心から詫びることで。神がおられる自分の心の前でやってください。わざわざキリスト教会に行ってやる必要はありません。罪に苛まれ苦しんでいる人は、ぜひ、反省することをお勧めします。

### ○ポジティブな想いを持って生きる

私達は飲食物からだけエネルギーを摂取していると思っていますが、呼吸によって空気からも摂取しているのです。でもいくら摂取しても、ネガティブな想いを持っていてはエネルギーを完全燃焼させることができません。なぜなら、ネガティブな想いは光を閉ざしてしまうからです。(光は酸素のように燃焼効率を高める働きがある)反対にポジティブな想いは、光を呼び込みますので燃焼効率が上がります。明るく朗らかな人が病気になりづらいのは、そういった理由があるからです。もう一点、私達の周りには、

良い波動や悪い波動など様々な波動が飛び交っています。私達はその波動に、良くも悪くも影響を受けているのです。たとえば、良い想いを持っていれば良い波動と同調して幸せがやってきます。悪い想いを持っていれば悪い波動と同調して不幸せがやってきます。精神病という病気は、自分が出したネガティブな想いに悪的波動が同調して起きるのです。これは波動の世界で生きている私達には、逃れられない宿命です。ならば、良い想い、明るい想い、楽しい想いを持つようではありませんか。どうしてもネガティブな想いを消せない人は、次のような言葉でネガティブな想いを打ち消して下さい。「ありがとう！　うれしいな！　楽しいな！」

思いは見えませんが、でも、見えないからといって思いを軽んじてはなりません。思いは創造の力です。思いほど偉大な力はないのです。ぜひ良い想いを持ってください。

## ○生活環境を良くする

人生を左右する要因の一つに環境があります。明るく清潔であれば幸せが、暗く不潔であれば不幸が……。これは当たり前のことであって、何の不思議もありません。明るく清潔な場所で生活しましょう。また、明るい人達と交わりましょう。というより、自分が明るければ波動の同調によって周りに明るい人達が集まってくるから、まずは自分が明るくなることです。明るい所に蝶や蜂が飛び交うように、明るい思いを持って生きれば良い環境が整い、幸せな人生を送ることができるのです。自由に環境を選ぶことができるのが、自由意志を持つ私達の特権です。でもその環境を呼び寄せるのは、本人の想念なのです。良い想念を持てば、良い環境が与えられます。悪い想念を持てば、悪い環境が与えられます。これは原因と結果の法則によるものですから、避けられないのです。ですから、普段から良い想念を持つよう心掛けることが大切です。生活環境は与

えられるものではありません。自分の想念で自分が持ってくるのです。

○自分の本性(生命)を意識して生きる

人間の本性は生命です。でも私達は、人間だと思っています。この人間という思いがエネルギーを低下させているのです。物質はエネルギーが低いのです。生命はエネルギーが高いのです。低い物質(肉体人間)を意識していて、どうしてエネルギーが高まりましようか？ さあ、常に「私は生命である！」と思ってください。生命を意識していれば、間違いないエネルギーが高まります。それも強く思えば思うほど、多く思えば思うほど高まります。意識することは自由にできます。誰にも邪魔されません。その自由な意識を、生命に、神に、無限に、本当の自分に、向けてください。本当の自分は、生命であり、神であり、無限なのですから・・・。

## ○人生の思索をする

人生の思索を行う者に痴呆症はありません。神様が、本当の自分を知ろうとしている者の頭を狂わすわけがないからです。ですから痴呆症になりたくなかったら、人生の思索をしてください。その者は、気付きと健康の二つの恵みが与えられるでしょう。人生の思索を始めると、宇宙エネルギー(光)を体感できます。(反省する者も、感謝する者も、同じ体験をします)それは、本当の自分が側で手伝ってくれるからです。人生の思索とは、「人生は何のためにあるのか?」「人間とは何か?」「人の死とは何か?」など、疑問に思っていることを自分に問いかけることです。人生の思索は、右脳を活発化させます。生命につながる通路が、太く広く大きくなるのです。そうなると、宇宙エネルギーが入りやすくなるのです。ぜひ人生の思索、自然界の思索、宇宙の思索、つまり、真理の思索をしてください。

○あまりお金や物に思いを向けないようにする

そもそも人間がお金や物の虜になるのは、お金や物を得れば幸せになれると思っ  
るからです。でも、どんなに沢山のお金や物を得ても虚しさが増すばかりで、一向に幸  
せ感を得られません。当然です。お金や物に思いを向ければ向けるほど、宇宙エネルギ  
ー(光)から遠ざかってしまうからです。物質は波動が低いのです。いやこの世のモノは、  
すべて波動が低いのです。波動を高めるには、「神・生命・無限・愛」を想うことです。  
「神・生命・心・愛」などの思いは波動が高いので、宇宙エネルギーが高められるので  
す。日々生きられるだけの物があれば良いのですから、あまりお金や物に執着しないで  
ください。それよりも、宇宙エネルギーを高める「神・生命・無限・愛」に思いを向ける  
ようにしてください。

### ○日々感謝の思いを持って生きる

無感謝の思いは光を閉ざし、感謝の思いは光を呼び込みます。感謝の思いは、宇宙エネルギーにつながる最良の方法なのです。あなたの両親に、兄弟姉妹に、友達に、あなたの周りのすべての人達に、鉱物・植物・動物に、感謝してください。また自分の身体にも感謝しましょう。更に、過ちに気付かせてくれた病気にも感謝しましょう。『ありがとう！ ありがとう！』の感謝の思いは光ですから、光が入ってくれば闇である病気は退散するしかないので。どうか日々感謝の思いを持って生きてください。

### ○適度な運動をする

人間は体を動かすことによって使命が果たせるようになってきています。動けば人との出会いが生まれ、そこに様々なドラマが生まれ、たくさん体験ができます。その体験が、人

を大きく成長させるのです。また生理学的にいつても、適度な運動は身体に良いのです。適度な運動は体内の気の流れを良くし、細胞を活性化させるからです。特に血液の濃い人は、適度な運動が必要です。さらに良い点は、身体を動かせれば、原子核を増やすことができます。でも、きつい運動は避けてください。なんでもそうですが、「適度な運動ホドホド」が宇宙の法則に適っているのです。

なぜ行動力のある人は病気になるし、病気になる人は病気になるのかといえますと、意識が陽に傾いているからです。陽はエネルギーそのものですから、陽の意識を持っている人は、エネルギーシユなので病気になるし、病気になるのです。陽の意識とは、積極的な意識、果敢に挑戦する意識、突き進む意識、動じない意識、やり抜く意識、何でも良く受け取る意識です。このような意識を持っている人は、エネルギーが高いので病気になるし、病気になるのです。どうか行動力のある人、積極的な人になってください。その人は病気とは無縁な人になります。



## ○適量・適度・ホドホドの生活をする

私たちの体は、何を食べてもエネルギーに変わるようにできています。しかし現代社会の食生活は、一物すべてを食べておりません。食べづらい部分を捨てているのです。一物一価といって、本来食べ物に捨てる部分はないのです。どんな食べ物も丸ごと食べれば、それだけで十分栄養が摂れるようになっていくのです。その証拠に昔のエスキモー人は、魚や獣を丸ごと食べていたので、野菜や果物などを食べなくても健康でいられたのです。その意味からいえば何を食べても良いわけですが、現代社会の食生活は食べづらい部分を切り捨てているので、一物一価になっていないのです。だから適度な種類の食べ物を、適量摂る必要があるのです。食べ過ぎるのは良くありません。食べ無いのも良くありません。また辛すぎるのも、甘すぎるのも、濃すぎるのも、脂っこすぎるのも、良くありません。宇宙の法則である「中庸・中道」から逸脱しているからです。また

楽しみも、極端な快樂は良くありません。なぜなら、楽は苦の対極にあるからです。麻薬はその典型的事例です。運動も食事も楽しみも、ホドホドが良いのです。エネルギーはバランスが取れた時、一番高くなるようになっていくからです。

### ○病は身から出た錆である

病気は身から出た錆であることは確かです。なぜなら、宇宙の法則（原因と結果の法則）に間違いはないからです。宇宙が必然により運ばれているといわれるのは、この法則が完璧に行き届いているからです。もしこの宇宙に偶然があるなら、人は一秒たりとも安心して生きられないでしょう。幸い偶然はないので、人は安心して生きられるのです。と同時に、自分の生き方に対しての責任も問われるのです。事実、事故や病気で苦しんでいる人たちは、責任を背負って生きている人たちです。つまり、自分が犯した過

ちに（原因に）対する結果を、苦しみという形で償っているのです。

でも悲観的にならないでください。苦しみがあればこそ、私たちは大きく成長できるのですから……。大病になった後、人が変わったといわれるのは、病気から大切なことを学んだからです。これは「自分で罪を犯し、自分で苦しみ、その苦しみから大切なことを発見し、そして成長する」全て自己完結型の学びの姿であり、進化の姿です。だから、身から出た錆も良いことなのです。

### ○何が大切か？

病気で死ぬ人と病気から生還する人がいますが、どちらでも良いのです。長命が幸せか？ 短命が幸せか？ そんなこと、人生の目的から考えればどうでも良いからです。

重要なのは、人生で何を学んだか？ 何を掴んだか？ です。

人の生き死には、生命だけが知っています。生命は完全ですから、どのような死に方をしても、それは良いことなのです。一番大切なのは、人間とは何か？ 人は何のために生まれてくるのか？ 人生は何のためにあるのか？ など人生の意味を知ることです。それを今人類は、苦しみを通して知ろうとしているのです。病や事故は、それを知るための手段です。

肉体は朽ち果てますが、生命は永遠です。私たちは永遠の生命ですから、永遠の目で人生を見なくてはならないのです。そうすれば、人生において何が一番大切かが見えてくるでしょう。

### ○汝の見るもの受け継がん！

宇宙の約束ごとに、「汝の見るもの受け継がん！」という法則があります。これは、

想ったことは何でも受け継ぐという意味です。つまり、良いことを想えば(意識すれば)良いことを受け継ぎ、悪いことを想えば(意識すれば)悪いことを受け継ぐという意味です。皆さんは病気のことは想わなかったかもしれませんが、病気と同じ波動の悪い想いを持っていたため病気になったのです。勿論、病気には複雑な原因が絡んでいますから一概に言い切れませんが、想いが作っていることは間違いないのです。では、どうすれば良いのか？ それは宇宙の法則を逆手に利用することです。要するに、良いことを想い続けることです。良いこととは、神のこと、生命のこと、大霊のことです。もし想い続けることができたら、何もしなくても病から生還できるでしょう。これは、白隠和尚が証明してくれているので間違いありません。彼は肺結核になりましたが、神を想い続けることで病から生還できたのです。つまり、良いことを想い続けることで生還できたのです。たしかに、病気のことを想うなどいわれても、想わないでいられないかもしれませんが

ん。そういわれれば言われるほど想ってしまうからです。想わないためには、神に、生命に、大霊に、意識を集中するしかないのです。つまり、多く瞑想するしかないのです。想ったことは必ず受け継ぎます。これは私が保証するのではなく、宇宙の法則が、神が保証するのですから、間違いありません。ぜひ、良い想いを持ってください。

### ○想念によって訴えかける

あなたが病気になったのは、想念を苦しみに使っていたからです。想念を良く使えば、良いことが・・・悪いことに使えば、悪いことが・・・これが想念の仕組みなのです。といっても、肉体が痛んでいたら、良いことを想いたいと思っても、なかなか想えるものではありません。ではどうするか?・・・このように想ってください。「何も思わない!何も思わない!何も思わない!」と自分の思いに言い聞かせるのです。そうすれば、

痛みが和らぎます。なぜ和らぐかといいますと、それは肉体が痛んでいるのでは無く、想念が痛んでいるからです。ですから想念をなだめるのです。そうすれば、痛みは和らぎます。痛みが和らいだら、生命を、神を、光を、想うことができますでしょう。想念は、肉体感覚さえも支配できるのです。どうか、想念の偉大さを知ってください。さあ、良い想いを持ち続けましょう。

明るく、明るく、朗らかに・・・何事も良く受け取り、生命を想い、神を想い、光を想い、日々生きましょう。

### ○私が本当に望んでいること!!

この本の締めくくりとして、私が一番に望んでいることを最後に述べさせていただきます。この本は、私に読んでいただき、お叱りを受けるかも知れませんが、私は病気が

が治る治らないなどはどうでも良いと思っ  
ているのです。なぜなら、人生の目的は「本  
当の自分を知る」ことにあるからです。肉  
体はこの世限りのモノです。でも真理は、  
永遠のモノです。病気になって永遠のモノ  
が手に入れられるなら、こんな有り難い  
ことはないからです。だから私は、あまり  
病気で悩まないでくださいといいたいの  
です。人生において一番大切なのは、いかに  
本当の自分を知るかです。どうか、不純な  
動機で真理を学ばないでください。あなた  
の中には神(本当のあなた)がおられます。  
その神が、あなたの心の内を知らないはず  
はないのです。だから私は、純粋な動機で  
真理を求めて欲しいと願うのです。病気の  
ことは一切忘れ、ただただひたすらに、「本  
当の自分を知りたいから真理を学ぶ！」  
という姿勢を貫いてください。

真理を学んで病気を治そうと思うのは、  
矛盾なのです。なぜなら、病気を治したい  
と思うのは、病気を認めかつ病気を掴んで  
いるからです。病気を掴みながら、どう  
して病



気が治るでしょうか？ 無い病気をあると認めているから、いつまでも病気が治らないのです。もともと病気など無いのですから、無い病気のことには忘れることです。もし忘れることができたなら、いつのまにか病気は無くなっていくでしょう。でも、なかなか忘れることができない。常に病気のことを考えている。そんな雑念を抱えながら真理を学んでいては、まともな真理は得られません。ではどうしたら病気を忘れることができるかということですが、それは常に想念を神に向けることです。神を想い続けることです。病気を治したいから神に想いを向けるのではなく、本当の自分を知りたいから、神に想いを向けるのです。そういう純粋な動機で真理を求めたら、次の三つの果実を手に入れることができるでしょう。一つは、原子核が増える果実・もう一つは、自分の欠点が無くなる果実・あとの一つは・もう言うまでもないでしょう。

## ◎唯物的な迷いを退ける助言

今の社会では、人は死んだらお終いと言うことになっています。でも、人は死んだ後も人生の続きをしているのです。このことは、本来宗教で論じられるべき問題ではなく、教育で、いや政治で、論じられるべき大問題なのです。あなたは一回限りのキップと、プレミアム付きのキップのどちらを大切にしますか？ 続編のある物語と、続編のない物語のどちらが心に残りますか？ 人生も同じなのです。これっきりの人生は、どうしても刹那的な生き方になりがちです。「今楽しかったら良い！ 今幸せだったら良い！ あとは野となれ山となれ！」そんな生き方になるのです。今多くの人が刹那的な生き方をしているのは、人間が一時の存在だと考えているからです。もし人間が永遠の存在で、今の生き様が未来の人生に影響を及ぼすと知ったら、決して無責任な生き方はしないでしよう。科学者にいわせれば、「そんな非科学的な思想を吹き込むのは無責任だ！」

と怒りますが、たとえ非科学的であっても、人に希望をもたらすことができるなら許されて良いのではないでしょうか。たとえ私が唯物論者だとしても、人生に続きが有るか無いか問われたら、私は五分五分だと返答します。否定する根拠が何も無いからです。ということは、人生に続きが有るか無いかの確率は5割だということです。

今二頭の馬が競争しようとしています。一頭は唯物論の代表馬で、もう一頭は唯心論の代表馬です。外見が全く同じで、何も情報がないので、勝率は五割です。さあ、あなたはどちらの馬に賭けますか？ 多分迷うでしょうね。でも、迷うことはないのです。なぜなら、唯心論の代表馬の方には情報があるからです。それは、お釈迦様や覚者が残された、人は死後も生き続けるという情報です。いやそれよりも、この本を書いている私が、死んだ妻に会い妻の幽体に触っているのです。人は肉体を脱いだ後も、幽体という身体をまもって生きているのです。こんなはつきりとした情報があるというのに、あ

なには何の情報もない唯物論の代表馬の方に賭けるつもりですか？

同じ環境に生まれ、同じ環境で育った一卵性双生児でさえ、気性や気質が違うのです。それは過去において、違う人生を歩んでいたからではありませんか？ 同じ人間でありながら、なぜこうも気性や気質が違うのでしょうか？ 今生だけの人生ならあり得ないことです。また、脆弱な肉体を持って生まれてくる人もいれば、強靱な肉体を持って生まれてくる人もいる、これもおかしいとは思いませんか？ 最大の謎は、真理の理解できると理解できない人がいる、という不思議さです。これは「人生に続きがある」と考えなければ解けない謎です。どうでしょう。唯心論を信じて、何か損することがありますか？ 得することはあっても、損することは何もないのです。でも唯物論を信じた人は、大変な損をします。

「人生に続きがあるか無いか？」いずれ科学的に証明される時代が来るでしょう。そ

の時、唯物論を唱えていた科学者は大恥をかくことでしょう。また、唯物的に生きていた人は地団駄を踏むことでしょう。

なぜ最後にこのような話を持ち出したかといいますと、この究極の治療法は、見えない世界を抜にしては語れないからです。前述したように想念は見えないし、死後の世界も見えません。それよりも何よりも、神は見えません。宇宙の法則は見えません。その見えない世界の存在が信じられなくては、どんなに究極の治療法を信じようと思っても、信念が揺らいでしまいます。それでは癒やされないのです。もし癒やされたいと真に思うなら、見えない世界の存在を認め、想念の偉大さも認めてください。

以上、究極の癒しの方法を示しました。この究極の治療法は、「宇宙を・神を」どれほど理解し、信じられるかによって効果は違ってきます。でも、やれば間違いない効果が現れる究極の癒しの方法です。どうか病気に対する常識を、「この世に肉体病はない、

想念病があるだけである」という常識に変えてください。精神病で苦しんでいる人は、「精神病は魂の磨きに必要な最後の試練である」と良く受け取ってください。気持ちはずっと楽になるはずですよ。

## ◎おわりに

縁は異なるもの味なものといいますが、縁ほど不思議なものはありません。あなたがこの小冊子に出会えたのも縁あつてのことです、それは必要だから出会えた必然です。言い替えば、この小冊子を読むにふさわしい魂の持ち主だから出会えたのです。その縁を無駄にしないでください。

どんなに病気が癒やせても、名医とはいえません。病気にならない方法を教え、病気にならないようにしてやるのが名医です。下流でいくらゴミを拾い集めても、上流を清

めない限りゴミが無くならないように、いくら結果対処しても原因対処しない限り根本治療にはつながらないからです。私が物事の本質にこだわるのは、そういった理由があるからです。その意味からいえば、この本に書いてあることも同じ事がいえるわけですが、ただこの本に書いてある事は、人の心に変化を与える可能性がある点、他の治療法とは違います。たとえば、今まで唯物的だった人が唯心的になるとか、物質一辺倒だった人が、絵や、音楽や、自然や、宇宙などに興味を抱くようになるとか、見える物しか信じなかった人が、見えないものを信じるようになるといったふうにこの本は、心に微妙な変化をもたらす可能性があるのです。心に変化が起きれば、身体に変化が起きるのは当然ですから、この本を読むことは大いに意味のあることなのです。

何度もうのように、病気は外から来るものではありません。内から、自分の心から来るのです。ですからどんなに医学が進歩しても、心を見捨てる限りこの世から病気が無

くなることはありません。とはいっても、私は現代医療を否定しているわけではありません。現代医療もそれなりの役割を果たしているのですから、それはそれで必要です。ただ私は、何が大切か知ってほしいのです。つまり人の心が病気を作っていることを医療に携わっている人たちに知ってほしいのです。生きているのは物では無く、心だからです。私たちは肉体ではなく心です。つまり、私たちの本性は生命です。このことを知って欲しいために、この小冊子を書いたのです。

人間の目には、宇宙の大きな意志の働きは見えません。だから何か悲劇が起きても、人の目には偶然にしか見えないのです。でもどんなに偶然に見えても、そこにはきっちりとした意味があり、目的があるのです。

あなたに何か起こったら、宇宙生命は一体私に何を望んでいるのか？ 深く考えてみて下さい。きっと何かが見えてくるはずですよ。